ホンダ
F950CS・LS

取扱説明書

お買いあげありがとうございました。
お買いあげいただきましたF950CS.LS
をご使用になる前に、必ずこの取扱説
明書をお読みください。

お買いあげありがとう
ございました

お買いあげいただきました製品や、サービスに関してお気づきの点、ご意見などがございましたら、お買いあげいただいたホンダ販売店または下記の**<ご相談窓口>**にお気軽にお申しつけください。

なおホンダサービスの各地区センターでもお受けいたしております。

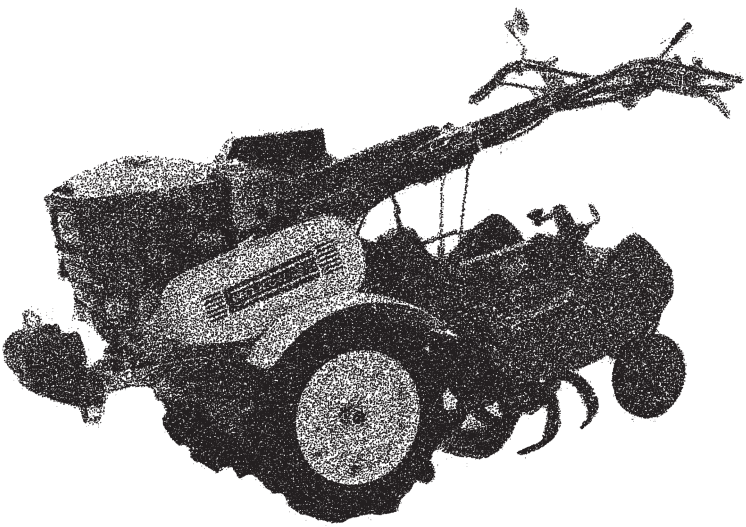
<ご相談窓口>

名称	電話番号	郵便番号	所在地
株式会社ホンダサービス お客様相談室　北海道	011(261)2073	060	北海道札幌市中央区北一条西7—1 〈本田技研工業㈱北海道支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　仙台	0222(24)6002	980	宮城県仙台市土樋1—11—2 〈本田技研工業㈱仙台支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　東京	03 (423) 4211	107	東京都港区南青山2—1—1 〈本田技研工業㈱東京支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　名古屋	052(251)7651	460	愛知県名古屋市中区千代田1—7—2 〈本田技研工業㈱名古屋支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　大阪	06 (312) 0151	530	大阪府大阪市北区南扇町7—31 〈本田技研工業㈱大阪支店内〉
株式会社ホンダサービス お客様相談室　九州	092(752)2255	810	福岡県福岡市中央区赤坂1—13—12 〈本田技研工業㈱九州支店内〉

・所在地，電話番号が変更になることがありますのでご了承ください。
・ホンダサービスの各地区センターの所在地は別紙の住所一覧をご覧ください。

ホンダF950CS・LSは、取扱いに優れ最も汎用性に富んだティラーです。安全、快適にお使いいただくために正しい取扱いをしなければなりません。ご使用前に必ずこの取扱説明書をお読みください。

なお、この取扱説明書は、仕様変更などにより写真、内容が一部実機と異なる場合があります。ご了承ください。



目　次

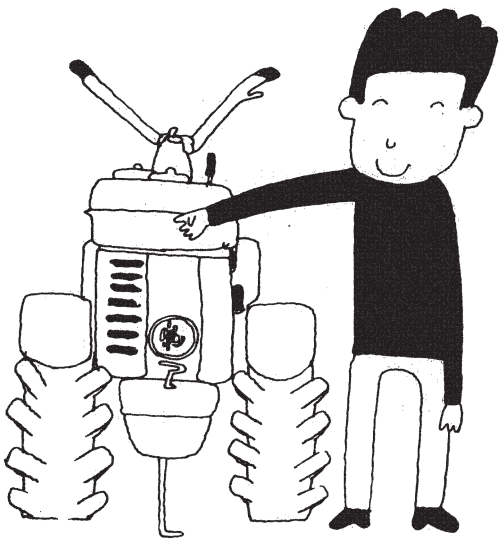
安全にお使いいただくために　これだけはぜひ守りましょう …… 4
各部の名称と取り扱いをおぼえましょう …… 14
エンジン スイッチ …… 16
エンジン回転調整レバー …… 16
主クラッチ レバー …… 17
変速レバー …… 18
操向クラッチ レバー …… 19
始動グリップ …… 19
チョーク ツマミ …… 20
動力取出軸 …… 20
ヒッチ ボックス（作業機取付部） …… 21
車輪取付ピン …… 21
ハンドル高さ調整ボルト …… 22
スタンド レバー …… 22
前照灯スイッチ …… 23
警音ボタン …… 23
前部おもり（フロント ウエイト） …… 24
車輪おもり（ホイール ウエイト） …… 24
駐車ブレーキ レバー …… 25
エンジンをかける前に点検しましょう …… 26
ガソリンの点検 …… 26
エンジン オイルの点検 …… 27
空気清浄器（エア クリーナ）オイルの点検 …… 28
変速機オイルの点検 …… 29
ロータリ オイルの点検 …… 30
バッテリの点検 …… 31
タイヤ空気圧の点検 …… 32
エンジンのかけかた …… 33
運転操作のしかた …… 39
1.変速レバー …… 39
2.主クラッチ レバー …… 40
3.エンジン回転調整レバー …… 40

4.操向クラッチ レバー …… 41
5.動力取出軸の使いかた …… 42
6.ロータリの取付け …… 43
7.ロータリ変速レバー …… 47
8.尾輪ハンドル …… 47
エンジンのとめかた …… 48
定期手入れを行ないましょう …… 50
日常点検 …… 50
定期点検 …… 51
やさしい点検・整備 …… 52
携帯工具 …… 52
エンジン オイルの交換 …… 53
変速機オイルの交換 …… 54
ロータリ オイルの交換 …… 55
空気清浄器（エア クリーナ）の清掃 …… 56
点火プラグの清掃、調整 …… 57
燃料ろ過器清掃 …… 58
エンジン回転調整ワイヤの調整 …… 59
主クラッチ ワイヤの調整 …… 60
操向クラッチ ワイヤの調整 …… 61
駐車ブレーキ ワイヤの調整 …… 62
ベルトの調整 …… 63
ヒューズについて …… 64
前照灯バルブの交換 …… 66
長期間使用しない時の手入れ …… 67
別売部品 …… 68
主要諸元 …… 69
配線図 …… 70
故障のときは …… 71

安全にお使いいただくために

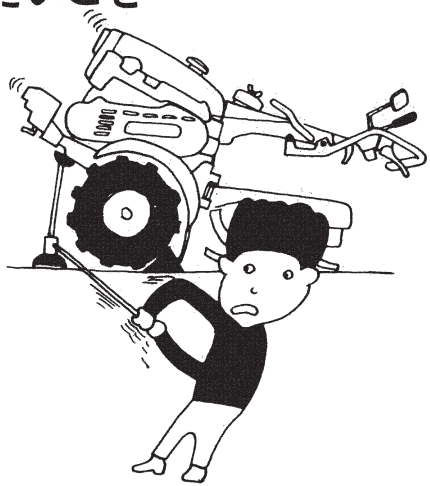
これだけはぜひ守りましょう

耕うん機・ティラーは正しく取扱って下さい。ちょっとした油断がもとで、思わぬ事故を招くことがあります。安全で、能率的な農作業のために次のことを必ずお守りください。



●安全のために知っておきたいこと

★日常の整備・点検を忘れずに。
（作業機を上げて点検する場合は、必ず落下防止を行なってください）

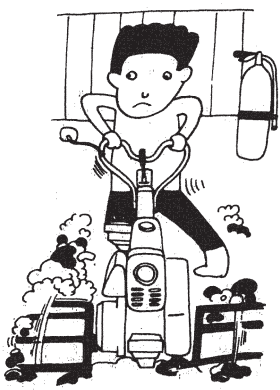


★工具を適切に管理し、正しく使用する。
★子供を乗せたり、近寄らせない。
★本機を離れる時は、エンジンを止めエンジンスイッチキーを抜く。



★衣服や頭髪、手ぬぐいなどが巻込まれないよう、服装には十分注意する（道路走行など、必要なときは、保護帽を着用してください）

★火災の恐れがある場所での作業は、十分に注意し、消火器など火災予防の措置を講ずる。



●作業を始める前に

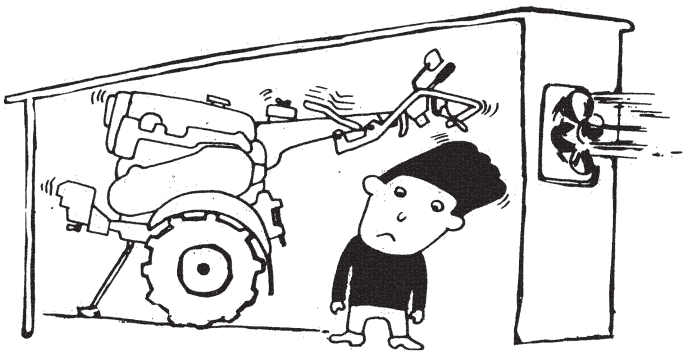
★必ず点検・整備を行なう。

機械の点検整備

●点検作業は、交通の危険がなく、平坦で安全な場所で行なう。

●装着する作業機に合わせて、おもり（ウエイト）などによって適正なバランスを保つ。

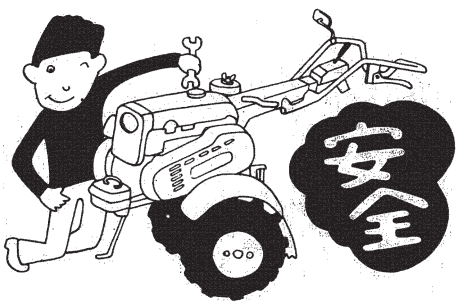
●屋内でエンジンをまわしながら点検する場合は、換気に十分注意する。



防護装置の保全

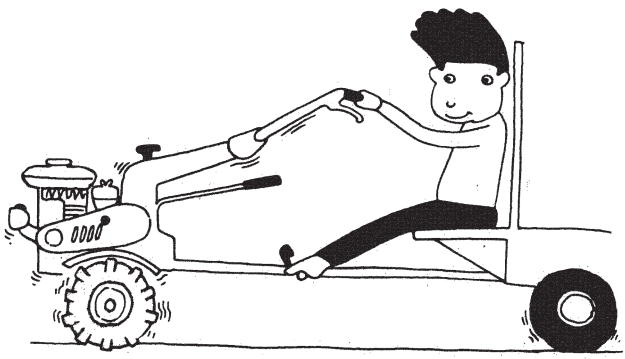
●防護装置は正しく装着されているかどうか。

●点検・整備のため取り外された防護装置は、正しく復元され、十分に機能を発揮するかどうか。

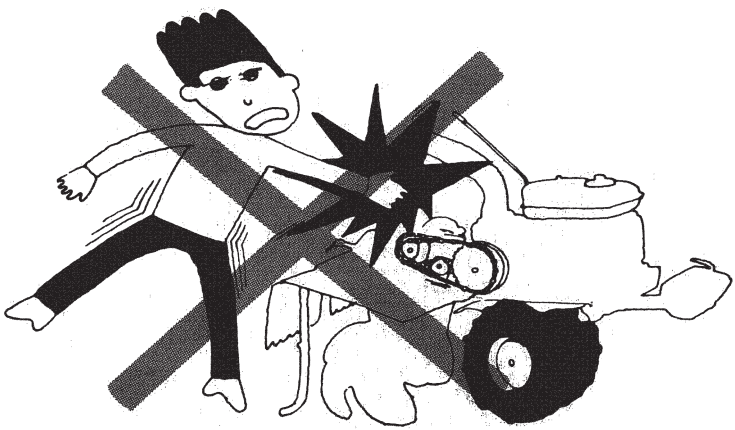


●作業中の注意

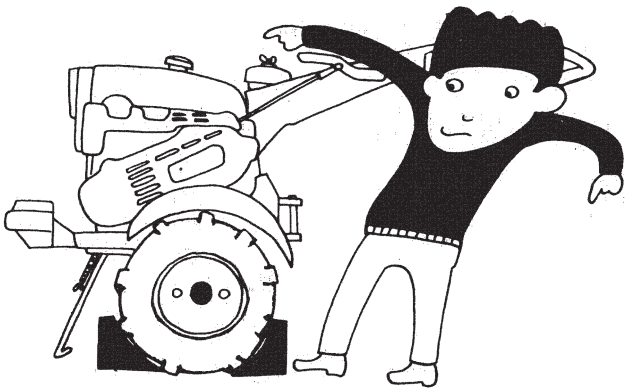
★作業中は、まわりに十分注意し、関係者以外の人を近づけない。
★傾斜地では転倒を防ぐため、速度や旋回などに十分注意する。
★作業場への出入り、溝または畦畔の横断、軟弱地の通過など、転倒には十分注意する。
★乗用作業の場合は、指定箇所以外に乗らない。また、定員以上乗せない。



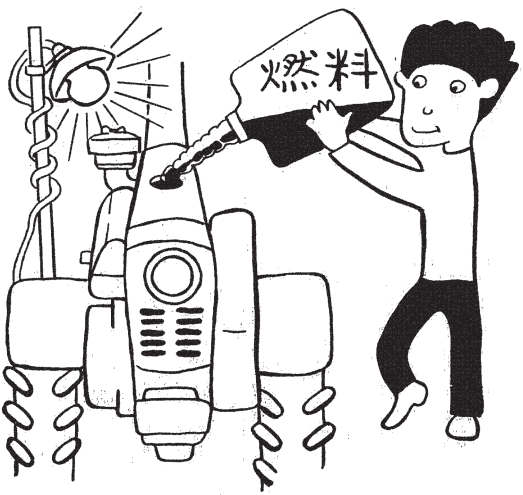
★作業中は、動力伝達装置や回転部に接触しないよう特に注意する。



★土塊や石などが飛び散る作業においては、傷害に注意する。
★休けいなどで機械を離れる場合は、安定した場所で確実に固定する。
★作業中に異常を感じたら、必ずエンジンを停止し、エンジンスイッチキーを抜いてから点検を行なう。

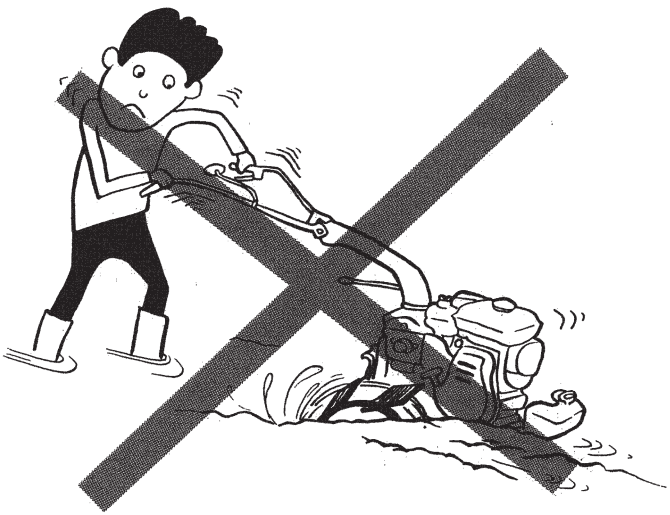


★夜間給油を行なう場合は、裸火を使用せず安全な照明のもとで給油する。
★ガソリンはこぼさない。
●ガソリンがこぼれたらきれいに拭き、乾かしてから始動する。



★ファン カバーの下部が水につかる様な深い水田での前傾運転は始動モータの故障の原因となりますので避けてください。

●万一、ファン カバー内に泥水がはいった場合は早めに点検整備を受けてください。

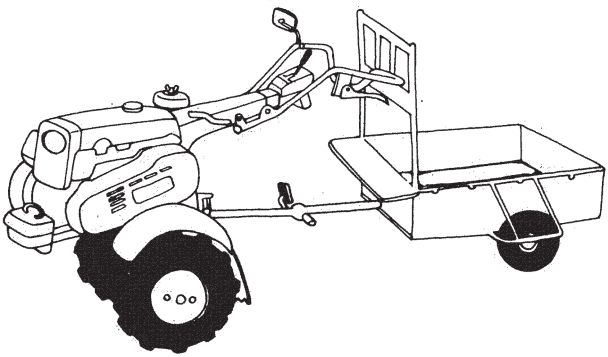


●正しいトレーラー走行

耕うん機とトレーラーを小型特殊自動車として市町村役場に届出すると、一般公道での走行ができます。

★運転者が必ず携帯しなければならないもの。

- ●運転免許証
- ●小型特殊自動車届出済証





★走行前に次の点検確認をする。

- ●トレーラーの主ブレーキは効くか？
- ●トレーラーの手動ブレーキは効くか？
- ●ナンバープレートの確認
- ●反射鏡の確認
- ●後写鏡は装備してあるか？
- ●前照灯は点灯するか？
- ●警音器は鳴るか？
- ●タイヤの空気圧は適正か？（1.1～1.3kg/cm^2）
- ●保持ピンの取付けは？
- ●車軸ピンの取付けは？
- ●車輪のガタ、異常の有無

★次の点に注意してトレーラー走行する。

●走行中は、運転者以外の人を絶対に乗せないでください。
また走行中、運転者は立ったり坐ったりして運転しないでください。

●方向転換は、操向クラッチ レバーを切らずハンドルで行なう。

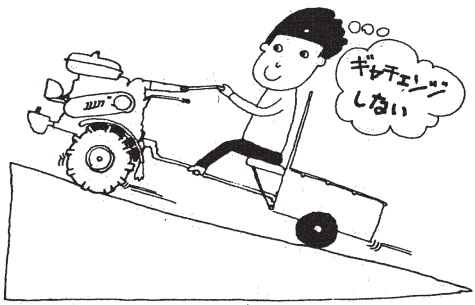
●坂道を下るときは、操向クラッチ レバーを使用しない。

●坂道の下りは、エンジン ブレーキと主ブレーキを併用する。

●坂道では変速しない。

●車輪巾を広くする。

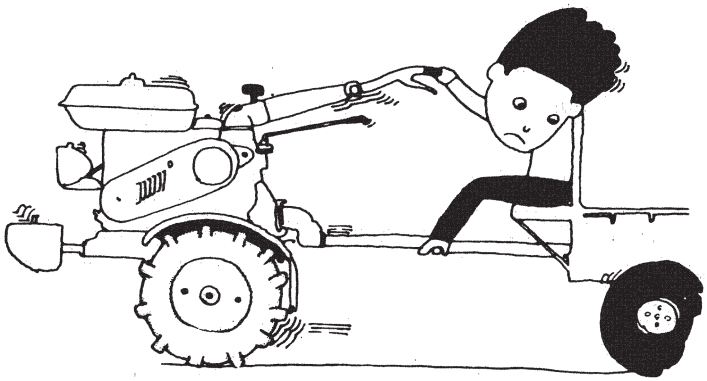




●本機のタイヤ空気圧を1.1kg／cm²～ 1.3kg／cm²にする。

●トレーラーの表示限界積載量をまもる。

●走行は、毎時15km以下の安全速度をまもる。

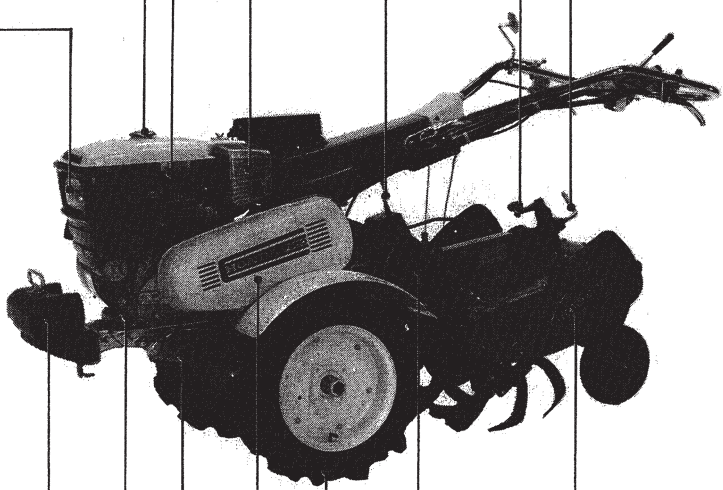


●作業が終ったら

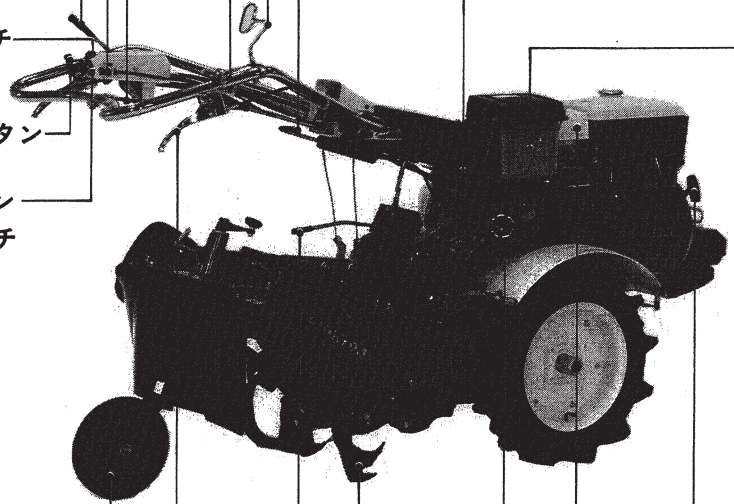
★次の作業のために機械の点検、整備を行なう。
★作業機の取外しは、平坦で安全な場所で行なう。
★トラック等への積降し等は、転倒や落下に注意する。
★トラック等による運搬時は燃料コックを“OFF(閉)”にする。
(ロープを掛ける場合は、バッテリケース、カバーにはロープを掛けないでください。バッテリケース、カバーが変形します。)
★本機を水洗いする時は、バッテリ・ヒューズなどの電装品、および気化器に水がかからないように注意してください。
★保管は安定した場所で安全な状態で行なう。



各部の名称と取り

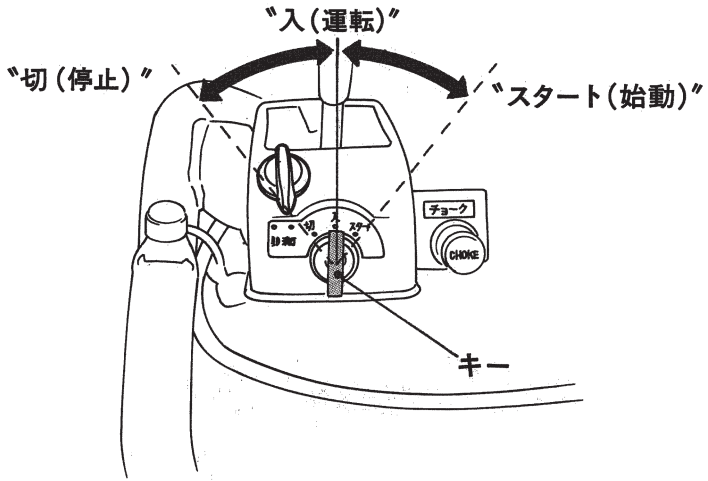

消音器
点火プラグ
ガソリン注入口
前照灯
前部
おもり
エンジンオイル
注入口
スタンド
ベルトカバー
後進停止棒
尾輪ハンドル
尾輪取付ハンドル
補助側板
耕うんケース
車輪

扱いをおぼえましょう


駐車ブレーキレバー
チョークツマミ
主クラッチレバー
前照灯スイッチツマミ
警音ボタン
エンジンスイッチ
尾輪
操向クラッチレバー
ロータリー変速レバー
エンジン回転調整レバー
後写鏡
スタンドレバー
ヒューズ ボックス
バッテリ
始動グリップ
空気清浄器
変速機オイル注入口
耕うん爪

エンジン スイッチ

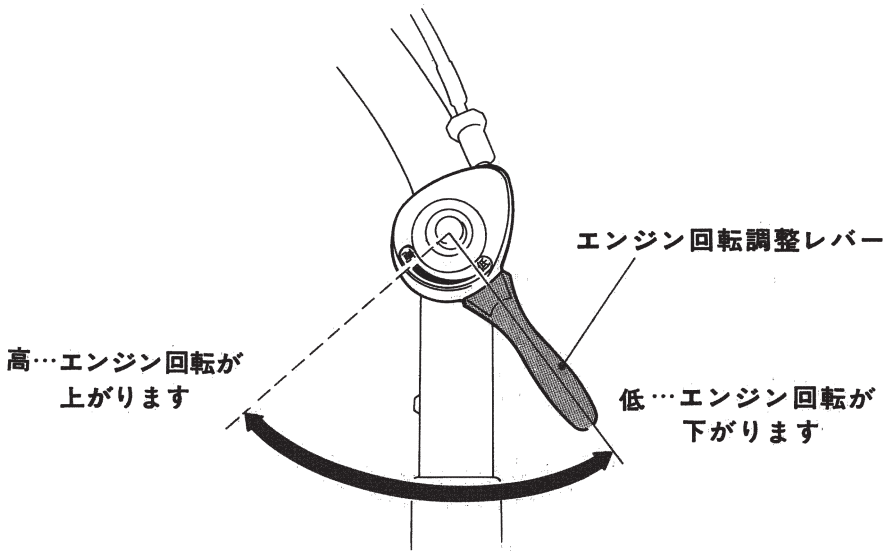
エンジン スイッチは、エンジンの始動、運転、停止をする時に操作します。



エンジン回転調整レバー

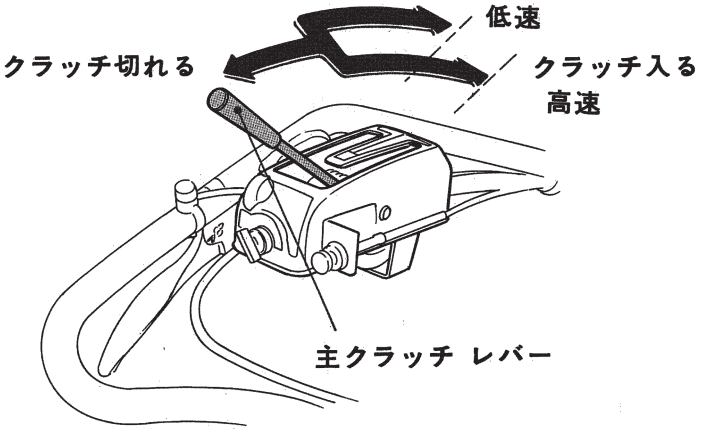
エンジン回転を調整するものです。

エンジンの始動、運転中、停止時に操作します。



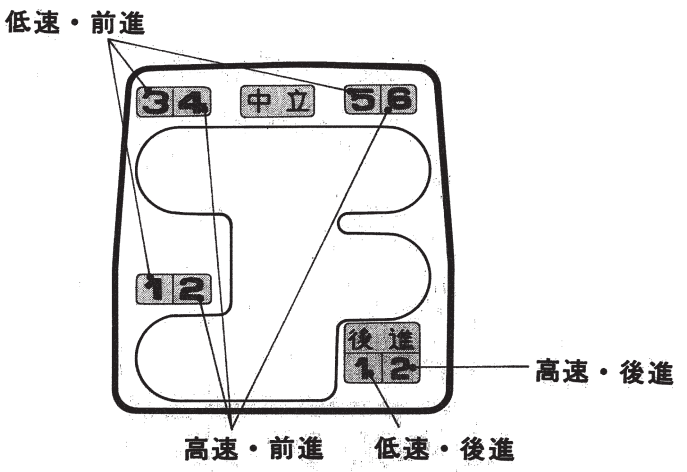
主クラッチ レバー

主クラッチは、車輪および動力取出軸への動力を断接する装置です。
主クラッチ レバーを手前に引くと動力が切れ、前方に倒すと動力が伝わります。
又、主クラッチ レバーは副変速の役目も兼備えています。



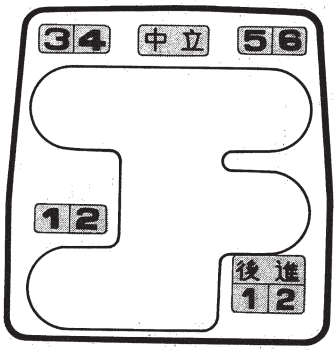
(副変速の役目)

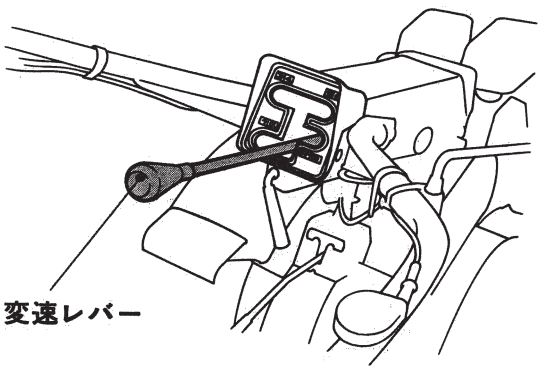
主クラッチ レバーで〝**低速**〟側〝**高速**〟側に切り換えられます。
主クラッチ レバーで〝低速〟〝高速〟に切り換えると主変速は図のようになります。



変速レバー

ティラーの速度を変える時に操作します。変速は、前進3段、後進1段です。主クラッチ　レバーを〝低速〟〝高速〟にすると車速は前進6段、後進2段になります。





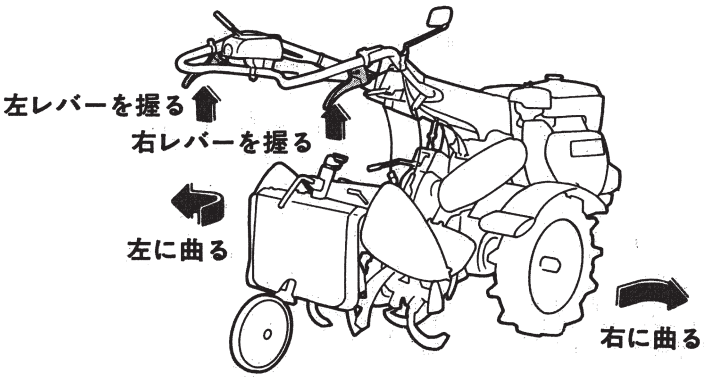
操向クラッチ レバー

方向を変えるときに使います。

レバーを握ると握った方向に曲ります。

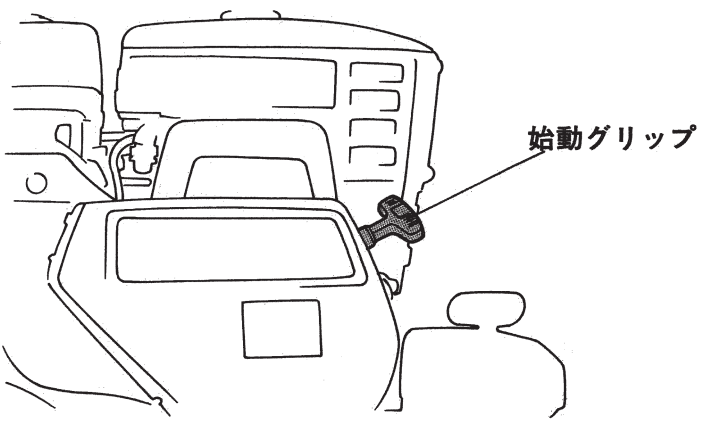
右レバーを握る－右に曲る

左レバーを握る－左に曲る



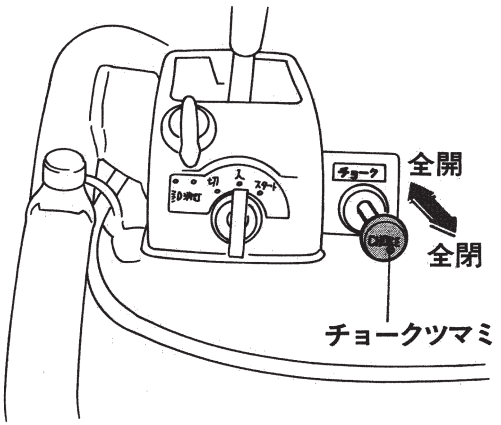
始動グリップ

セル スタータが使えない場合、エンジンを始動するときに操作します。



チョーク ツマミ

エンジンが冷えているとき、またエンジンがかかりにくいときに操作します。

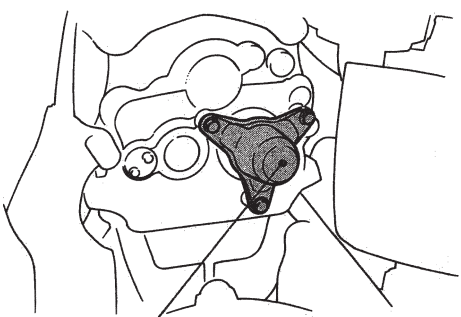


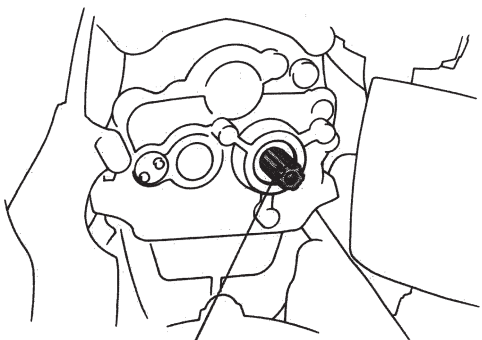
動力取出軸

動力取出軸は定置作業、動噴、草刈、中耕ロータリ等に使います。

動力の取出しは6㎜ボルト3本を外し動力取出軸カバーを取外して行ないます。

注意 ・動力取出軸を使わない時は必ずカバーを取付けてください。

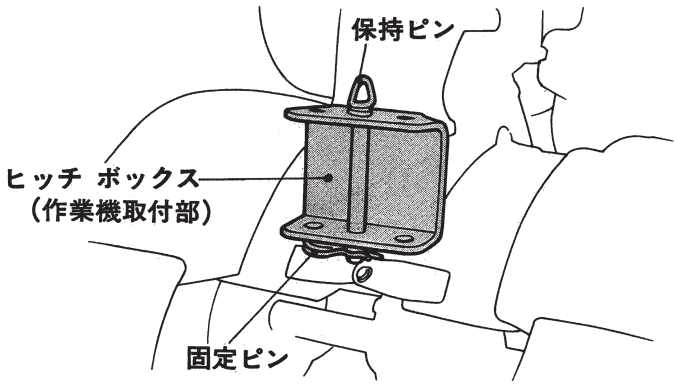




ヒッチ ボックス(作業機取付部)

作業機を取付けるところです。

取付けは、保持ピンを差し込みます。保持ピンは、固定ピンで固定します。



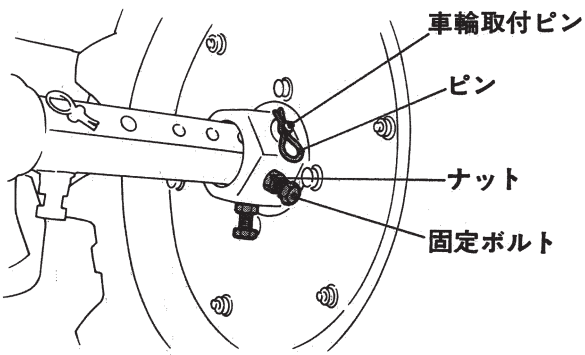
車輪取付けピン

車輪の取付け、取外し、車輪幅の調整を行うときに 取扱います。

〈調整のしかた〉

ナット、固定ボルトをゆるめ、ピン、車輪取付けピンをはずし、任意の穴にさしかえます。

注意 ・車輪を取外す時は、2人で行なうか棒等で支え転倒に注意してください。

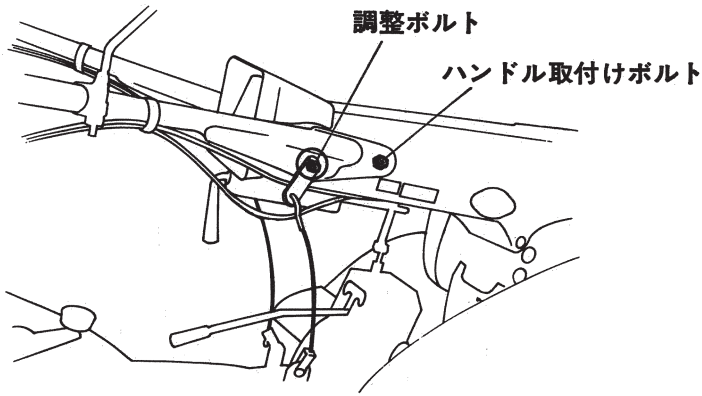


ハンドル高さ調整ボルト

ハンドルの高さを作業内容、運転者の身長に合わせるためのボルトです。

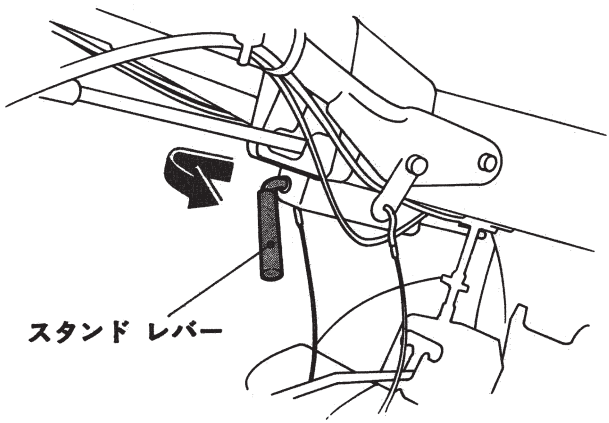
〈調整のしかた〉

ハンドル取付けボルトをゆるめ、調整ボルトを外し、任意の穴に差しかえ調整します。調整後ボルトは確実に締付けてください。



スタンド レバー

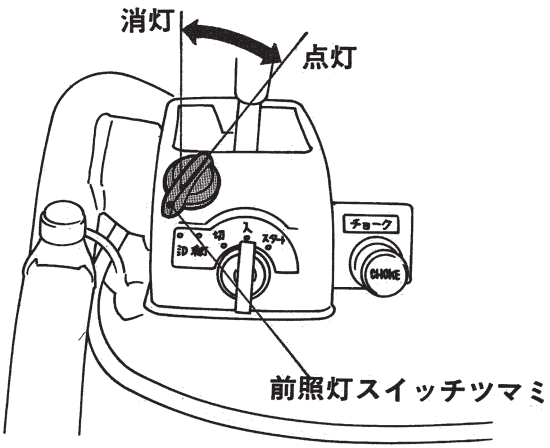
レバーを手前に引くと、スタンドが格納し、戻すとスタンドが出ます。



前照灯スイッチ ツマミ

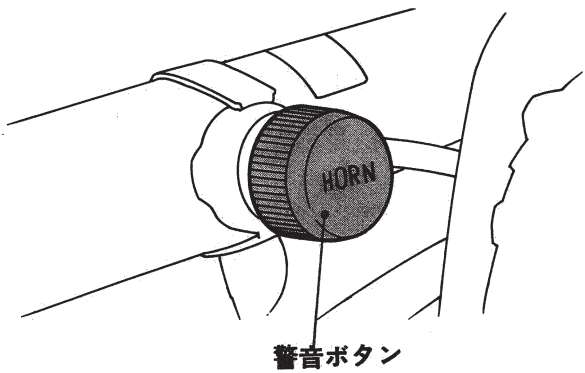
夜間作業を行なうときに使用します。
スイッチ ツマミを右に回すと前照灯が点灯します。(エンジン スイッチが〝切(停止)〞のときは点灯しません。)

注意 ・低速回転で長時間前照灯を使用の場合、バッテリが上がることがあります。



警音ボタン

エンジンを始動し、警音ボタンを押すと警音器が鳴ります。
(エンジン スイッチが〝切(停止)〞のときは鳴りません。)



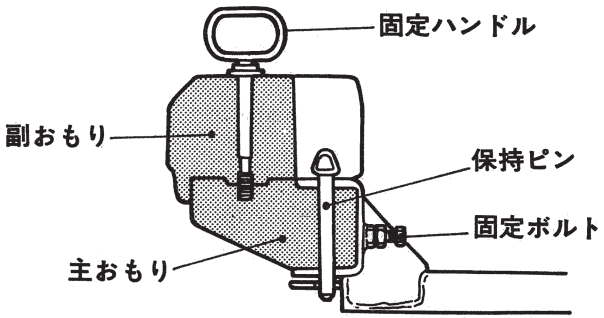
前部おもり(フロント ウエイト)

主おもり、副おもりの2つに分れています。作業内容に応じて本機重量の増減に使用します。

〈取付けかた〉

1.図のように主おもりを保持ピンで取付け、左右の固定ボルトで固定します。

2.副おもりを主おもりの上にのせ、固定ハンドルで固定します。

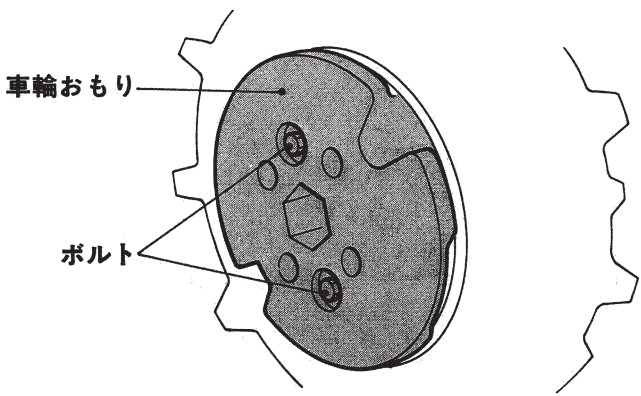


車輪おもり(ホイール ウエイト)

けん引作業のときに本機重量の増減に使用します。

取付けは、ボルト、ナットで行ないます。

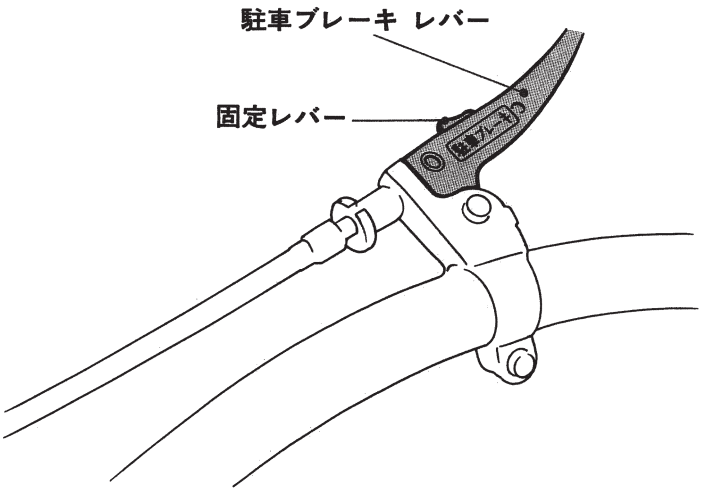
注意 ・ボルト、ナットは運転中にゆるまないように確実に締付けてください。



駐車ブレーキ　レバー

作業中ちょっとティラーをとめた時および長期保管等の駐車時に操作します。
ブレーキ　レバーを握るとき、同時に固定レバーを握ることによりブレーキがかかります。
戻すときはレバーを握ると自動的にブレーキが解除されます。

注意
・トレーラ走行中、制動ブレーキとして使用しないでください。
・走行中には必ずレバーを戻してください。



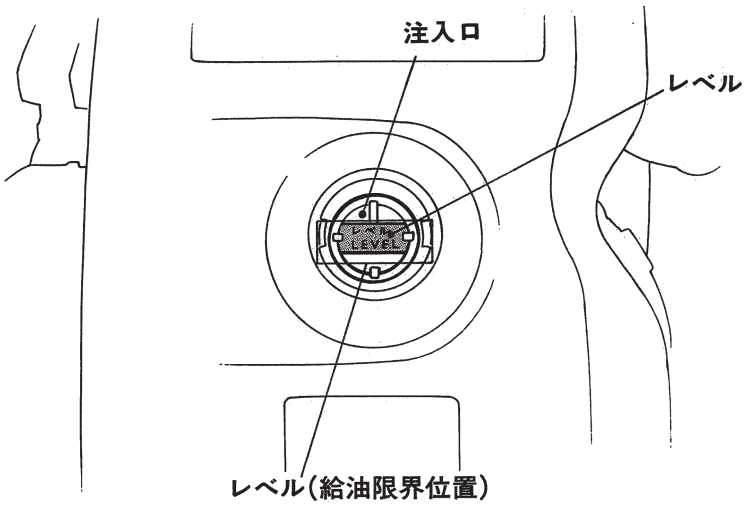
エンジンをかける

★点検は平坦な場所でエンジンを水平にし、エンジンをとめて行なってください。

ガソリンの点検

点検

燃料給油キャップを外し、給油口の レベル（給油限界位置）までガソリンがあるか点検します。すくない場合は補給してください。



補給

使用ガソリン：無鉛（レギュラ ガソリン）

タンク容量：4.3ℓ

・キャップを外し、給油口の レベル（給油限界位置）まで補給してください。

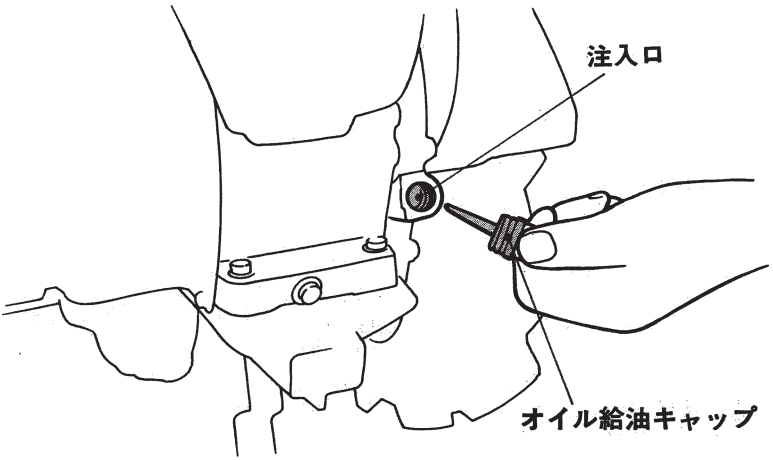
・キャップは完全にはめ込み、いっぱいにまわしてください。

注意
・火気厳禁
・必ずエンジンをとめて補給してください。
・本機に貼られている注意ステッカにしたがってください。

エンジン オイルの点検

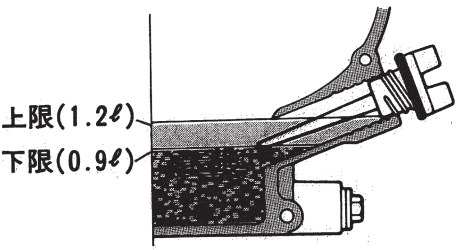
点検

オイル給油キャップを外し、注入口の口元までオイルがあるか点検します。
すくない場合は補給してください。



補給

・少ないときには新しいオイルを口元まで補給します。
・汚れや変色が著しい場合は交換してください。(交換時期、方法は53頁参照)
・指定オイル:ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(ＳＡＥ30)、ウルトラ-U(２輪車用)またはＡＰＩ分類ＳＥ級相当のエンジン オイル



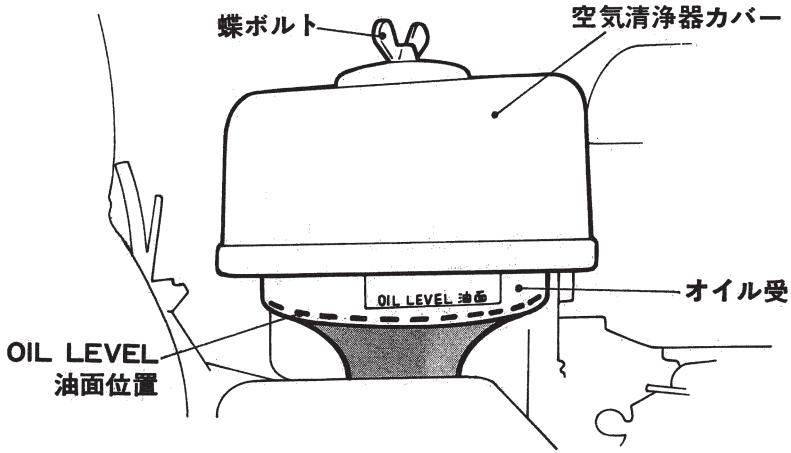
注意
・極寒地域で使用する場合は、ウルトラ-U(2輪車用)またはAPI分類SE級相当のSAE10W-30 エンジン オイルをご使用ください。

注意
・キャップは、ドライバー等で確実に締付けてください。
・締付けがゆるいとオイルがもれることがあります。

空気清浄器(エア クリーナ)オイルの点検

点検

オイル受の**OIL LEVEL・油面**の位置までオイルがあるか点検します。
すくない場合は、補給してください。



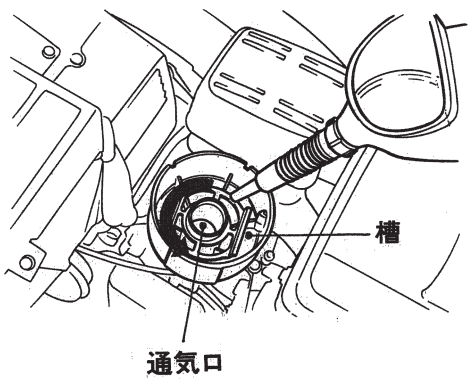
補給

使用オイル：新しいエンジンオイル

オイル容量：55cc

1. 蝶ボルトを外し、空気清浄器カバーを取外します。
2. オイル受の各槽に均一に**OIL LEVEL・油面**の位置まで補給してください。この時、通気口にオイルが入らない様、注意してください。万一入った場合はお買いあげ販売店、または、最寄りのホンダサービスの各地区センターにお申しつけください。
3. 補給後、カバーを取付け、蝶ボルトを完全に締付けてください。

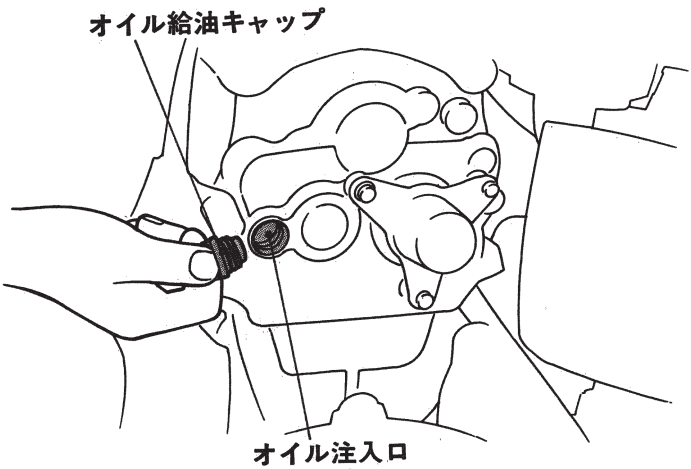
・オイルの汚れがひどい時には、空気清浄器の清掃、オイル交換を行なってください。(清掃、オイル交換要領は56頁参照)



変速機オイルの点検

点検

オイル給油キャップを外し、口元までオイルがあるか点検します。
すくない場合は補給してください。

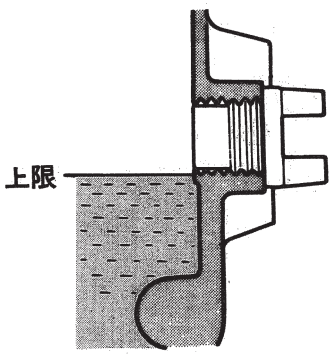


補給

使用オイル：新しいエンジンオイル

オイル容量：3.5ℓ

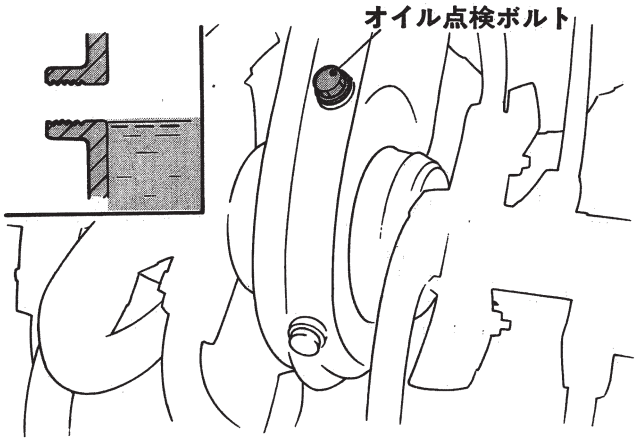
- 給油キャップを外し、口元まで補給してください。
- 補給後、キャップは完全に締付けてください。
- オイルの汚れがひどい時には交換してください。(交換時期、方法は54頁参照)



ロータリ オイルの点検

点検

ヒッチ ボックス（ロータリ取付け部）を水平にし、オイル点検ボルトを外し、オイルがにじみ出てくるか点検します。
すくない場合は補給してください。

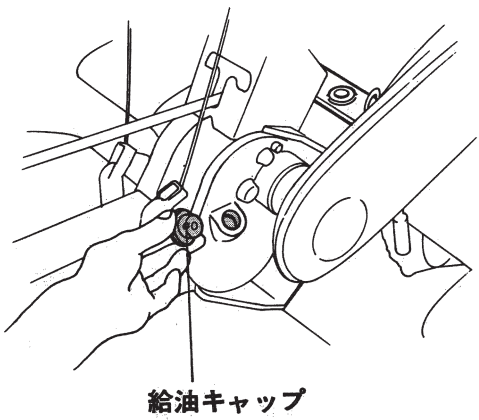


補給

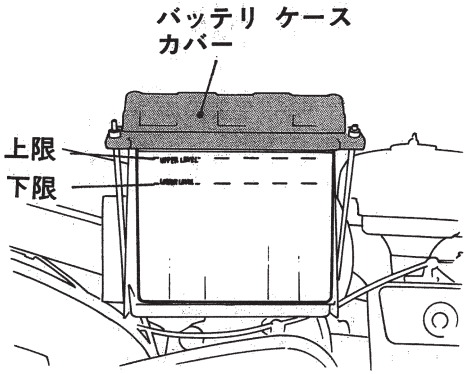
使用オイル：ホンダウルトラオイル

オイル量：0.6ℓ

・給油キャップを外して補給してください。
・オイルの汚れがひどい時は交換してください。(交換方法は55頁参照)



バッテリの点検



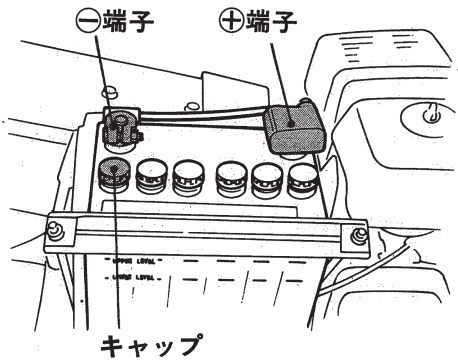
液の点検・補給

バッテリの液面が上限（UPPER・LEVEL）と下限（LOWER・LEVEL）の間にあれば正常です。少ない時はキャップをはずし、蒸留水を上限（UPPER・LEVEL）まで補給してください。

端子・キャップの点検

端子のゆるみ、腐触は接触不良の原因となります。ゆるんでいる時は、付属のスパナ（10×12）で確実に締付けてください。端子に白い粉がついている時は、お湯で清掃し、グリースを塗付してください。

・清掃する時は、湯が槽の中に入らないように気をつけてください。



補充電

長期保管後使用する時や、バッテリが上がり気味の時は補充電を行なってください。

バッテリは使用しなくても自然に放電します。

注意

・バッテリの配線をはずすときは㊀側から先にはずしてください。
・バッテリを取扱う時はショートによる火花や火気に注意してください。バッテリからは可燃性のガスが発生しているので爆発の危険があります。
・バッテリ液は希硫酸です。目や皮ふにつくとその部分は侵されますので十分注意してください。万一、付着した時は、すぐ多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、専門医の診察をただちに受けてください。

タイヤ空気圧の点検

点検

空気圧が正規か確認してください。空気圧が高過ぎるとけん引力が不足し、低すぎるとタイヤの寿命を短かくしたり、パンクしやすくなります。

空気圧が正規でない場合は必ず正規の空気圧にしてください。

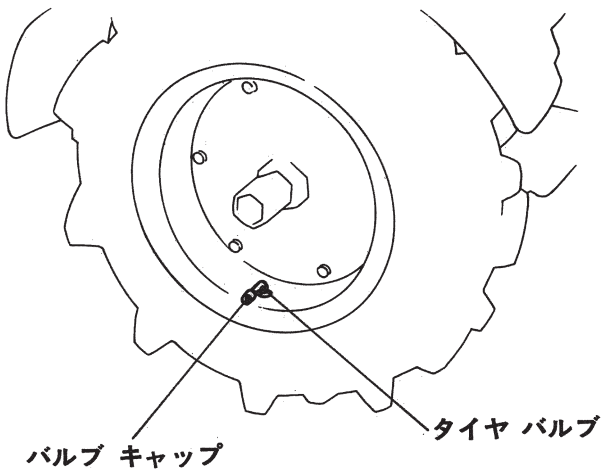
補給

バルブ キャップを取外し、タイヤ バルブより空気を注入する。

タイヤサイズ：4.00－12

標準空気圧：1.1～1.3kg/cm²

長期保管時には上記の値より若干高め(1.4～1.5kg/cm²程度)にしてください。



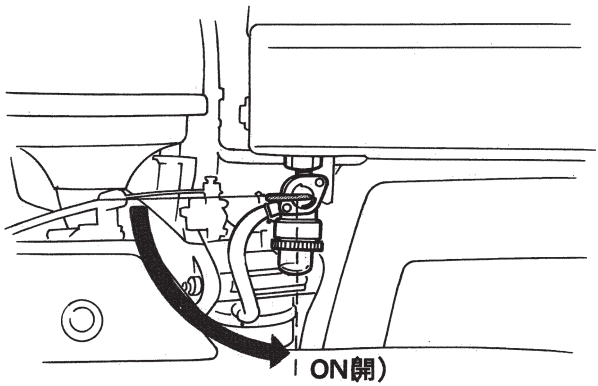
エンジンのかけかた

★主クラッチ レバー〝切〟変速レバー〝中立〟になっているか確認してからエンジンをかけてください。

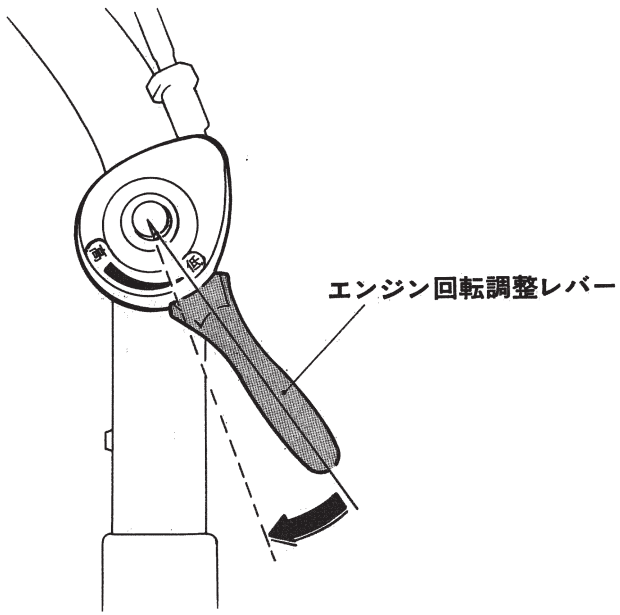
セル スタータを使用する場合

主クラッチ レバーを〝切〟にしないと始動モータは回わりません。

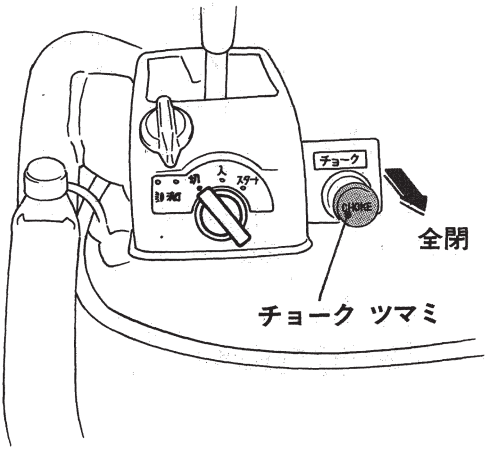
1.燃料コック　レバーを**〝ON(開)〟**に合わせます。



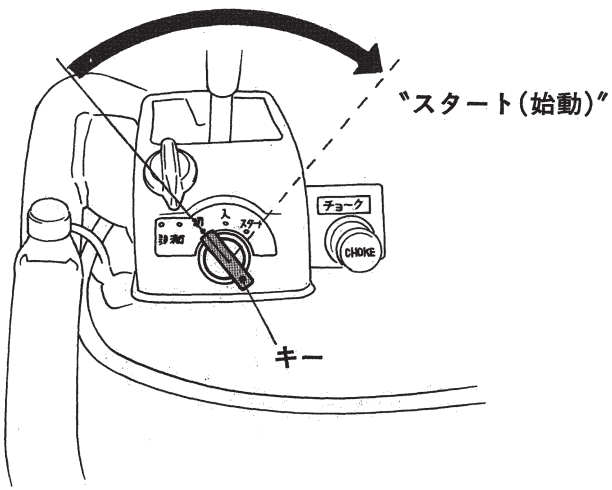
2.エンジン回転調転調整レバーを**〝高(内側)〟**方向に少しまわします。



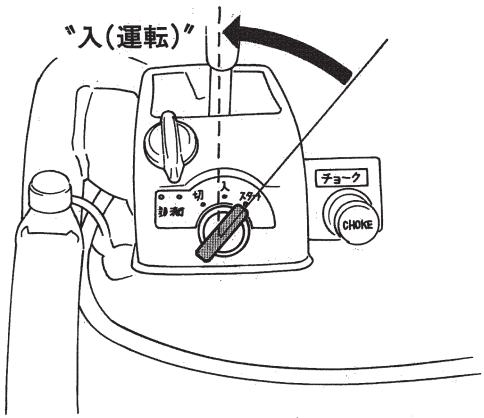
3. 寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ツマミを一杯に引きます。



4. キーを差し込み、〝スタート(始動)〞の位置まで回わします。



5. エンジンが始動したら、キーを〝運転〟の位置にもどします。

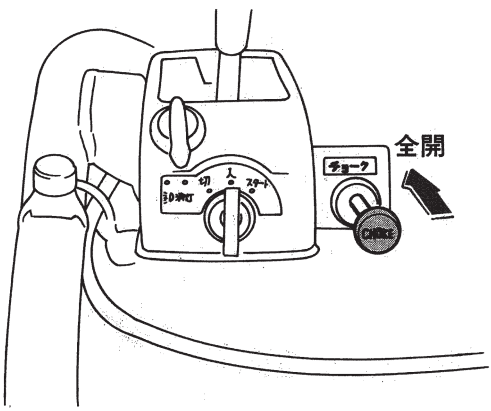


注意 ・エンジンが始動した後、キーを〝スタート〟の位置にしたままですと、始動装置を損傷させる原因となります。

始　動

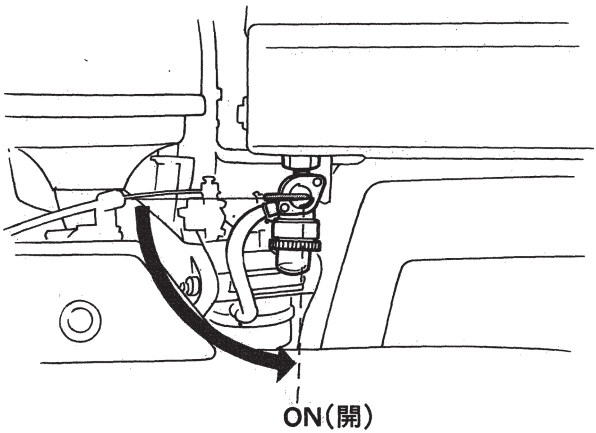
6. 2～3分間暖機運転を行ないます。

チョーク　ツマミを引いた時はエンジン回転が安定するのを確認しながら徐々に戻して〝全開〟の位置にしてください。

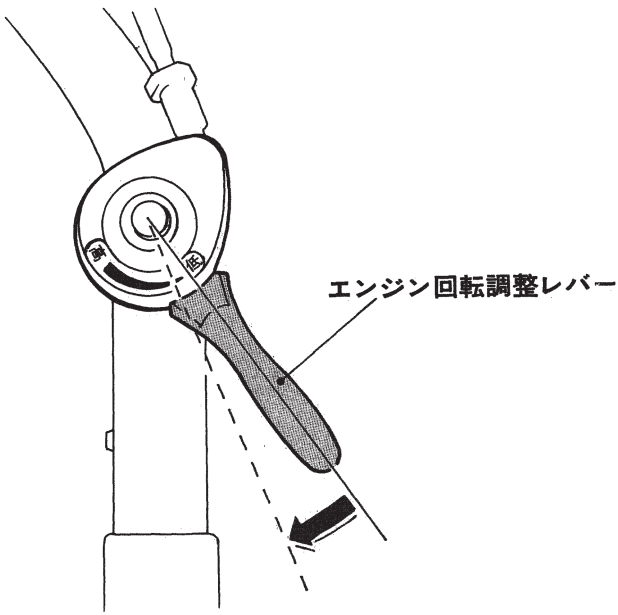


バッテリ上がり、ヒューズ切れ等によりセル スタータが使えない場合

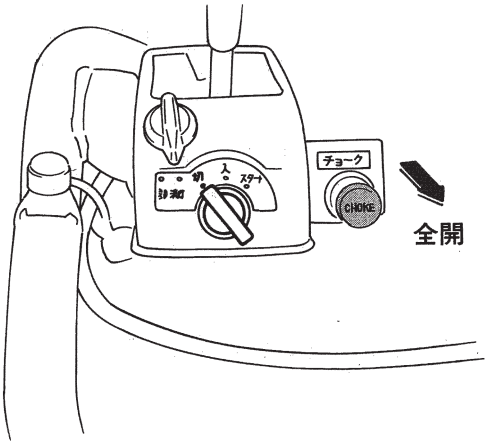
1. 燃料コック レバーを〝**ON(開)**〟に合わせます。



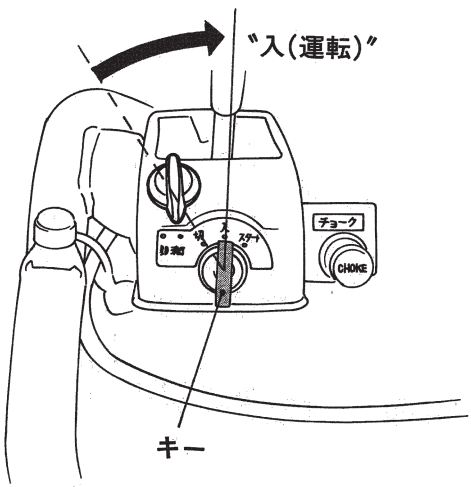
2. エンジン回転調整レバーを〝**高(内側)**〟方向に少しまわします。



3. 寒い時やエンジンがかかりにくい時には、チョーク ツマミを一杯に引きます。

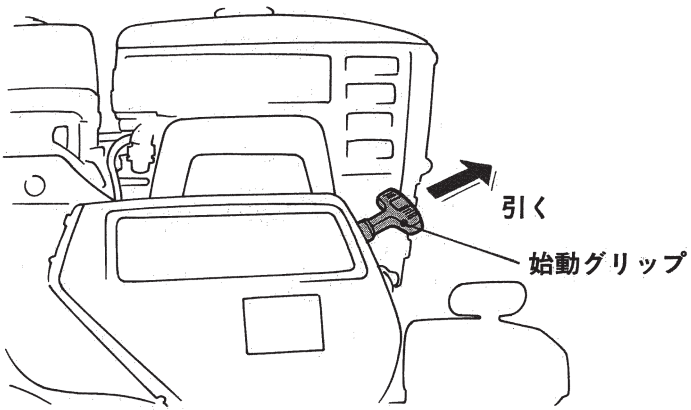


4. キーを **〝入(運転)〞** の位置に合わせます。



5.始動グリップを引き重くなる所をさがし、勢いよく引きます。

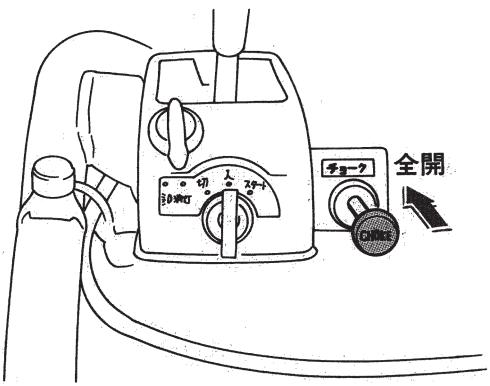
注意
- グリップを引いたまま手を放さないでください。始動装置を破損することがあります。
- 運転中は始動グリップに手を触れないでください。エンジンに悪影響をあたえます。



始　動

6.2～3分間暖機運転を行ないます。

チョーク ツマミを引いた時はエンジン回転が安定するのを確認しながら除々に戻して〝全開〟の位置にしてください。



運転操作のしかた

★安全な作業を行なうために、十分に理解して行なってください。

〝変　速〞

1.変速レバー

変速表の適応作業を目安に変速位置を選びます。

速度が早すぎても、遅すぎても運転の疲労、作業能率、仕上り等に弊害が出ます。

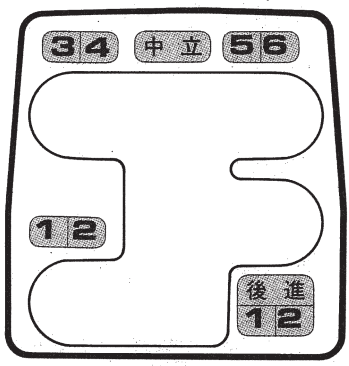
変速の要領

1)変速レバーは、必ず主クラッチを切ってから操作します。

2)乱暴な操作は故障の原因となりますので避けてください。

3)変速レバーが作動しにくい時にはいったん〝中立〞に戻し、主クラッチを入れて少し動かし、主クラッチを切りもう一度操作します。

4)後進の場合、特に足元に十分注意し低速で運転します。



変速表

副変速	主変速位置	車軸回転数（rpm）		適応作業
		F950CS	F950LS	
低速	1	11.47	8.97	ロータリー耕うん、ロータリー畝立、掘取作業
	3	31.83	38.11	稲ワラ集積、施肥播積、掘取作業
	5	81.28	81.28	ローター、代掻、トレーラー
	後進1	13.20	15.80	
高速	2	18.28	14.30	ロータリー耕うん、ロータリー畝立、掘取作業
	4	50.73	60.74	ローター、代掻
	6	129.55	129.55	トレーラー
	後進2	21.03	25.18	

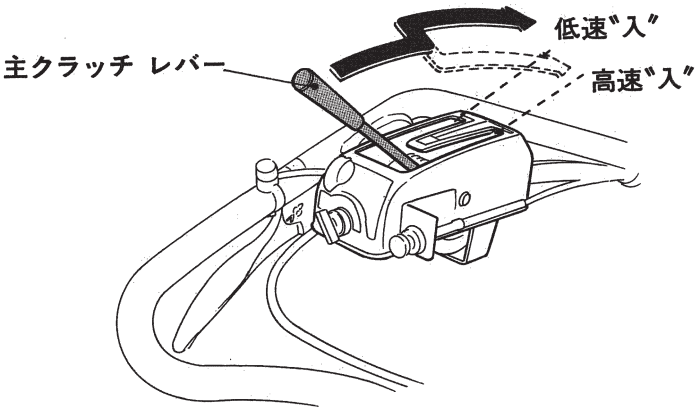
〝運　転〞

2.主クラッチ レバー

主クラッチ レバーの操作は、静か（スムーズ）に行ないます。
急激な操作を行うと機体が飛び出したり、エンジンが停止したりします。

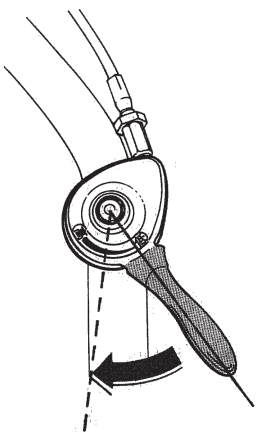
主クラッチの機能

・レバーを引く―クラッチ〝切〞―動力切れる。
　レバーを倒す―クラッチ〝入〞―動力伝わる。



3.エンジン回転調整レバー

レバーを高(内側)方向にまわし、エンジン回転を上げます。

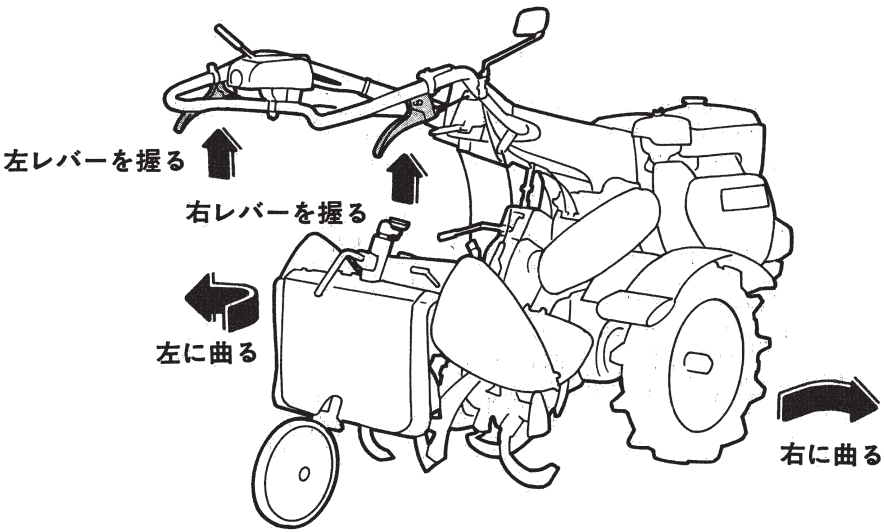


〝旋　回〞

4.操向クラッチ レバー

旋回しようとする方向のレバーを握ると旋回します。

操作クラッチの機能



注意

・高速運転時、操向クラッチ レバーを操作しないで下さい。
高速時操作すると、本機が急旋回し、運転者が飛ばされることがあり大変危険です。

・登り坂、下り坂では操向クラッチ レバーを操作しないでください。
登り坂、下り坂で操向クラッチ レバーを操作すると思いがけない方向に急旋回したり、急降下したりして大変危険です。

〝動力取出し〞

5.動力取出し軸の使いかた

・動力はハンドル側に取出します。

1)ボルト3本を外し、動力取出軸カバーを取外します。

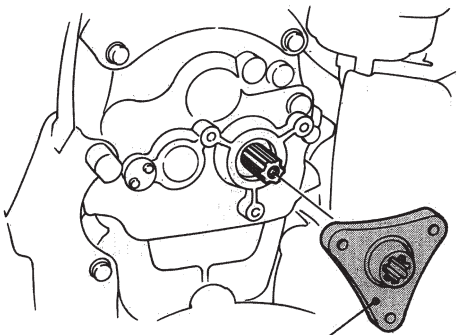
2)動力取出し軸にプーリ ボスを取付け、ボルトでプーリを取付けます。

注意

・動力取出しカバーは取出軸を使わない時は常に取付けておいてください。カバーを付けないでおくと衣類等が巻きつくことがあり危険です。

・本機のスタンドを立て、傾かないように板等をスタンドの下に敷いてください。スタンドが地中に入るとベルト等が外れることがあります。

・変速レバーを中立にしてください。中立にしないと本機が動き危険です。

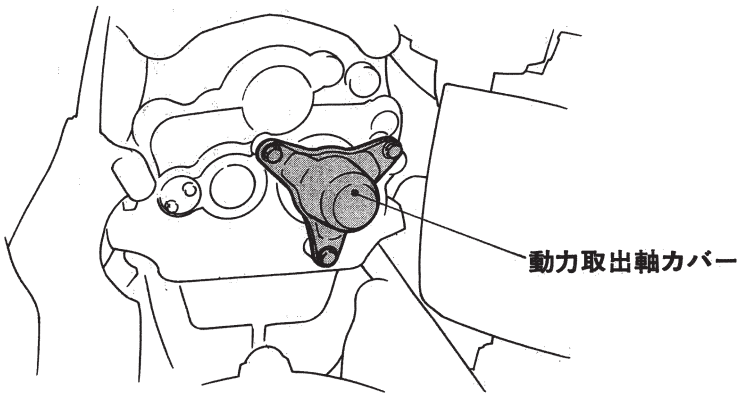


プーリ ボス

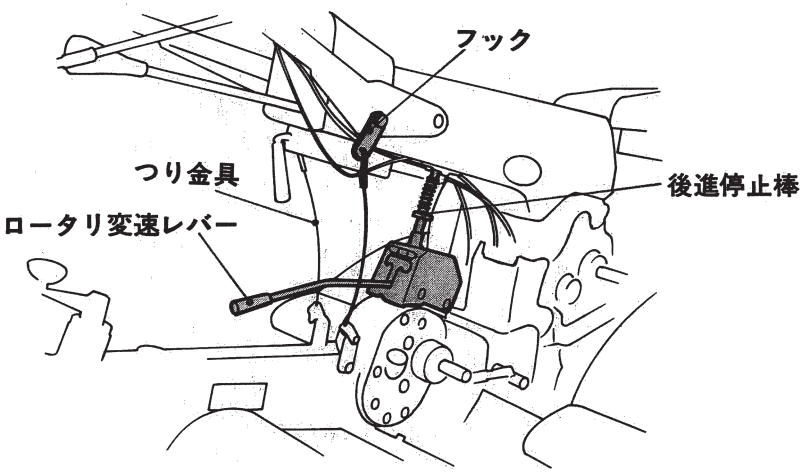
“取付け”

6.ロータリの取付け

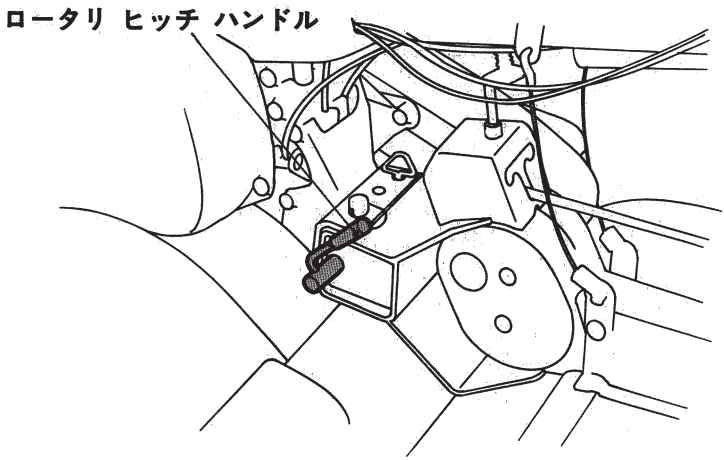
1)ボルト 3 本を外し、動力取出軸カバーを外します。



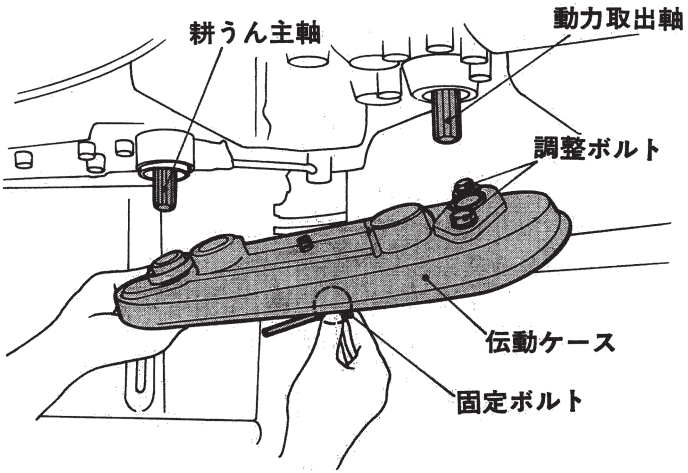
2)つり金具をフックにかけ保持した後ロータリをヒッチ ボックスに入れヒッチ ピンで取付け、固定ピンで固定します。
ロータリ変速レバーは中立にしてください。



3)ロータリ ヒッチ ハンドルを締付けロータリを固定します。



4)耕うん主軸と動力取出軸のスプラインに伝動ケースをはめ込み固定ボルトで固定します。



・伝動ケースが完全に入っていることを確認します。
・合わない時は、調整ボルトをゆるめ、調整し完全にはめ込み、締付けます。

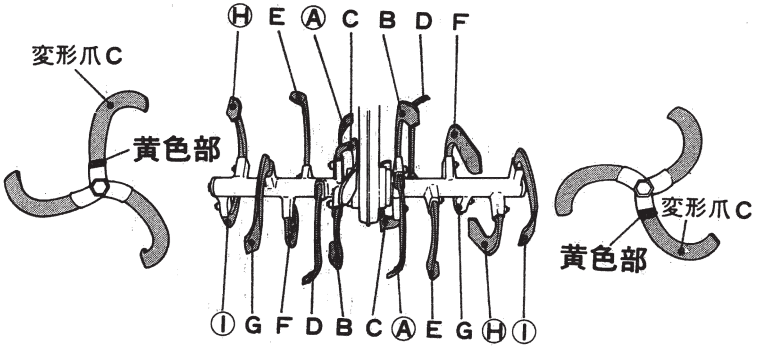
5)耕うん軸に耕うん爪を取付けます。

・耕うん軸の黄色部に変形爪Cを外向きに取付けます。

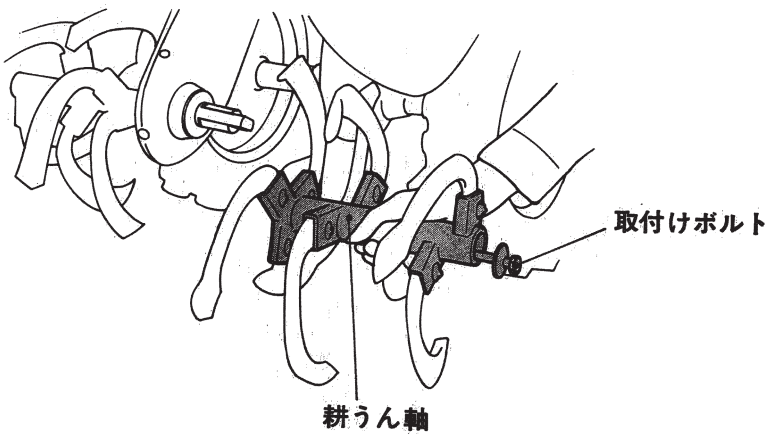
・ナタ爪B.D.E.F.Gは外向き、ⒶⒽⒾは内向きに取付けます。

・耕うん軸は、変形爪Cを180°ずらして取付けます。

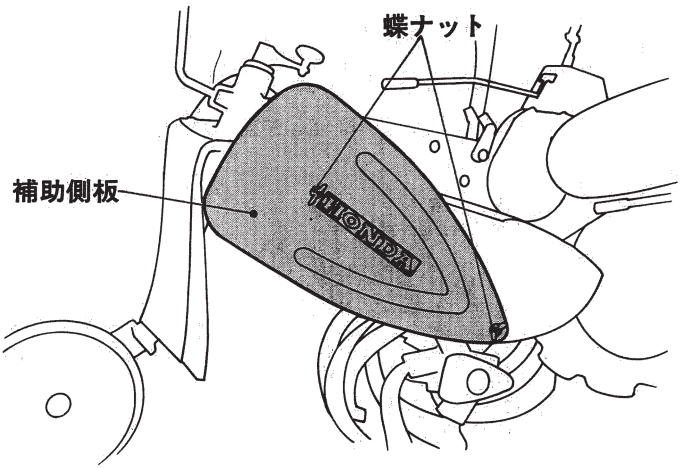
・取付後、ナットを確実に締付けてください。



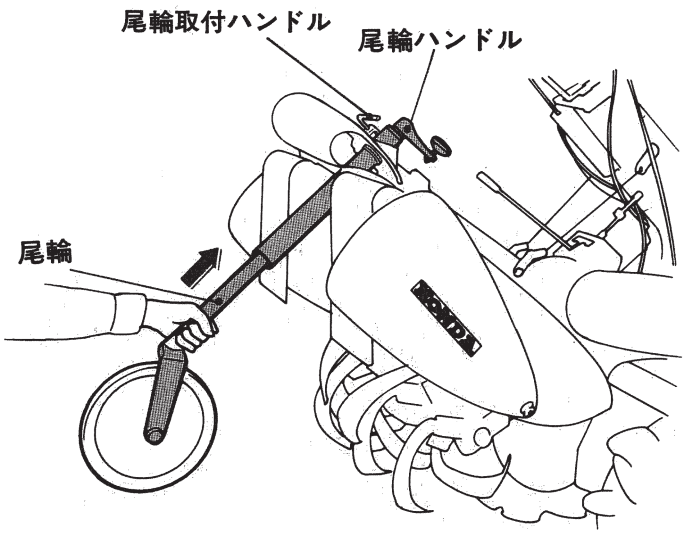
6)耕うん軸を耕うん機に取付け、取付けボルトを確実に締付けます。



7)ロータリ本体に補助側板を左右取付けます。



8)尾輪を取付け部に差込み、尾輪ハンドルを回しながら取付け尾輪取付ハンドルで固定します。



“ロータリの操作”

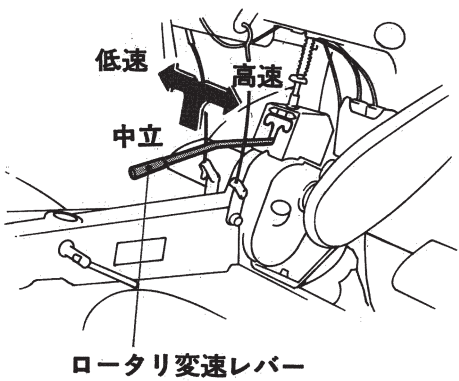
7.ロータリ変速レバー

耕うん軸の回転を変える時に操作します。

高速、低速に切り換えられます。

耕うん軸回転数(rpm)

伝動ケース		PTO:15T、RO:17T		PTO:17T、RO:15T	
耕うんケース		低速	高速	低速	高速
動力取出回転数	900	142	220	183	283
	1,500	237	367	305	472



8.尾輪ハンドル

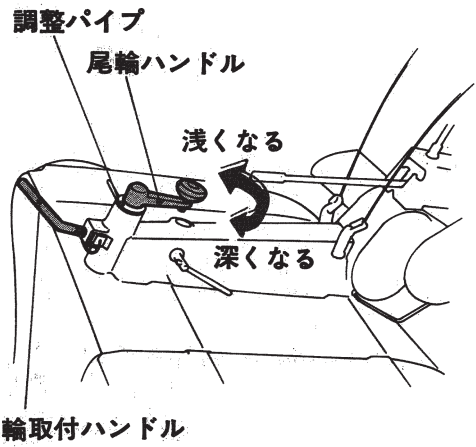
耕深を徴調整するものです。

〈調整のしかた〉

1)尾輪取付けハンドルをゆるめ、調整パイプで調整します。

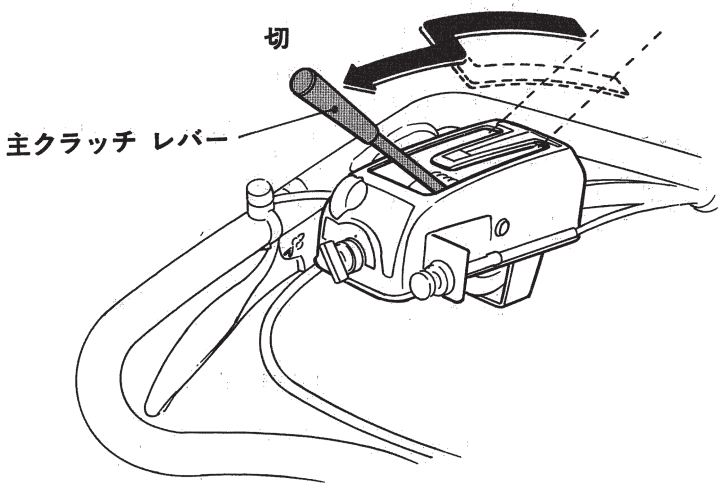
2)尾輪取付けハンドルを締付けます。

3)尾輪ハンドルを回し、耕深の徴調整をします。

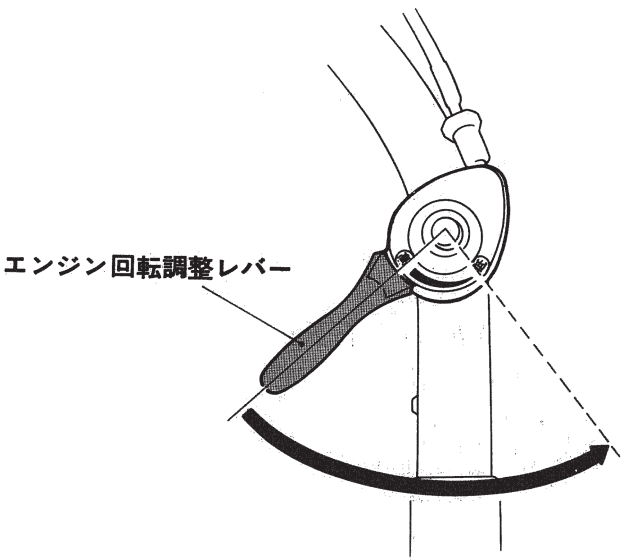


エンジンのとめかた

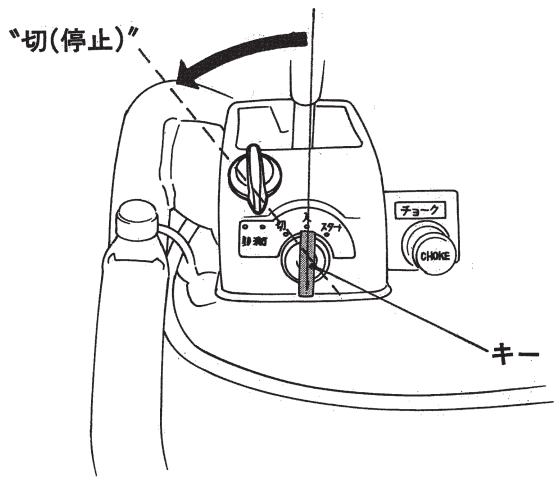
1.主クラッチ レバーを〝切〟変速レバーを〝中立〟にします。



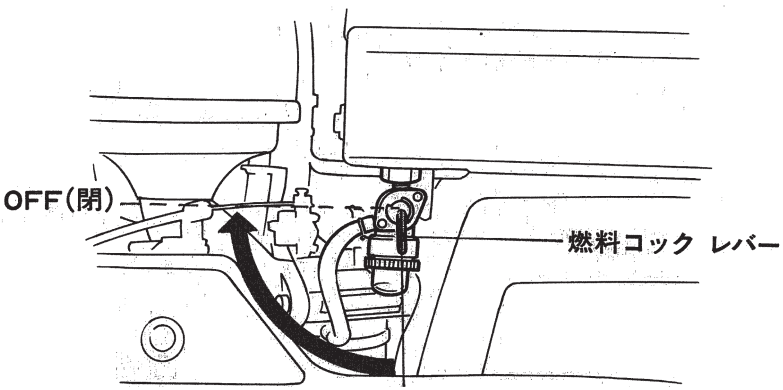
2.エンジン回転調整レバーを〝低(外側)〟の位置に戻します。



3. キーを **〝切(停止)〟** の位置に合わせます。



4. 本機から離れる時は、必ずエンジン スイッチ キーを抜いてください。
〝入(運転)〟の状態で長時間放置すると、バッテリ上がりの原因となります。
5. 燃料コック レバーを **〝OFF(閉)〟** に合わせます。

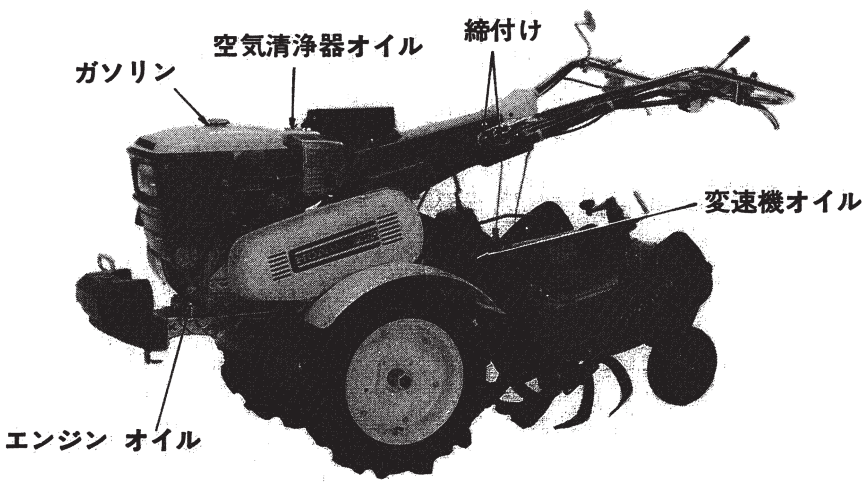


定期手入れを行ないましょう

日常点検

いつも安心して使用するためには日常の点検整備が必要です。忘れずに行なってください。

- エンジン オイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 変速機オイル……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- 空気清浄器オイル……{規定量入っているか。／汚れていないか。}
- ヘッド ライト、ホーンは作動するか。
  作動しない場合には、ヒューズが切れていないか点検してください。
  （交換方法はP64参照）
- バッテリ液……{規定量入っているか。／洩れはないか。}
- ガソリン……残量
- 異常個所……前日悪かった所
- 各部の締付け……ハンドル高さ調整レバー、ハンドル固定レバーにゆるみ、がたはないか。
- その他異常を感じたらただちにお買いあげ販売店へお申しつけください。



定期点検

お買いあげいただきましたティラをいつまでも調子よく、長持ちさせるために定期点検を受けましょう。

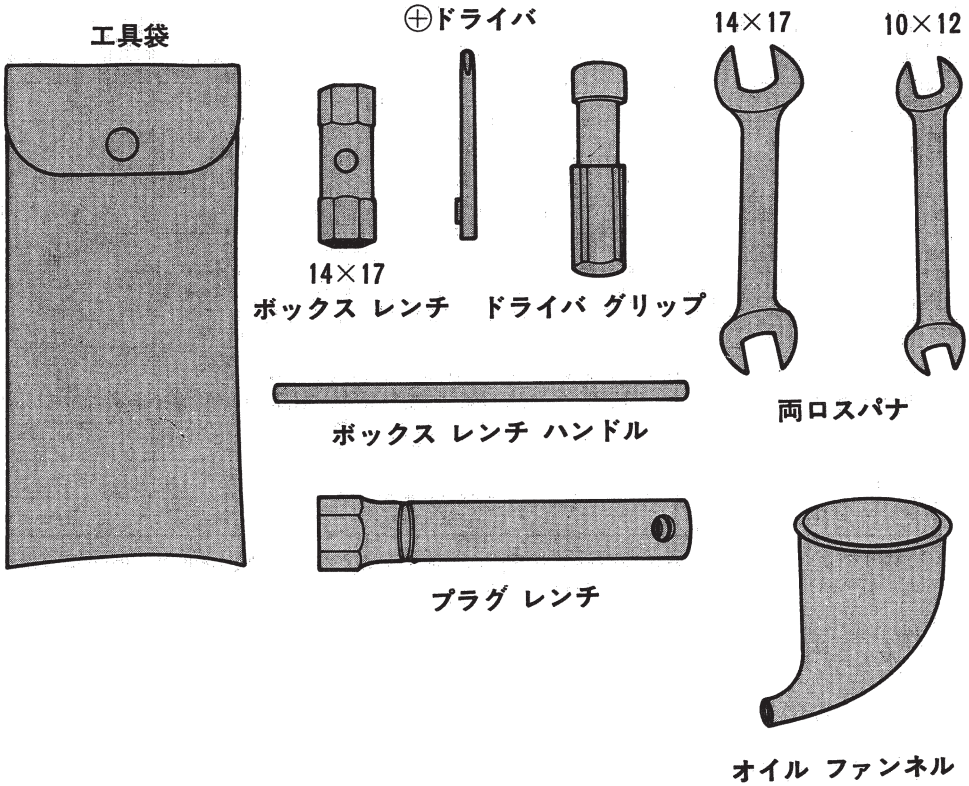
点検時期 / 点検項目	初回 20時間目	50時間運転毎	100時間運転毎	300時間運転毎または1年1回
エンジン オイルの交換	○		○	
変速機オイルの交換	○			○
空気清浄器の清掃オイル交換		○注1		
燃料ろ過装置の清掃			○	
点火プラグの清掃			○	
エンジン バルブ調整				○ ※
燃焼室清掃(バルブ摺合せを含む)				○ ※
バッテリ液の液量及び比重の点検			○ ※	
主クラッチ ワイヤの調整				○
エンジン回転調整ワイヤの調整				○
操向クラッチ ワイヤの調整				○
ブレーキ ワイヤの調整			○	
ベルトの調整	○		○	
燃料チューブ交換	3年毎			

〈注1〉 土煙りの立つ作業(砕土、草刈等)のときは空気清浄器の清掃・オイル交換は短時間(10時間毎または1日1回)で行なってください。

〈注2〉 ※印のついた項目は適切な工具と整備技術を必要としますのでお買いあげ販売店または最寄りのホンダサービスの各地区センターにお申しつけください。

携帯工具

工具は、点検・整備にかかすことのできないものです。常に携帯してください。



エンジン オイルの交換

エンジン オイルが汚れていると摺動部や回転部の寿命を著しく縮めます。交換時期、オイル容量を守りましょう。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：100時間運転毎

《指定オイル》

ホンダ純正ウルトラ ネオ汎用機用(SAE30)、ウルトラ－U(２輪車用)またはAPI分類SE級相当エンジン オイル

注意 ・極寒地域で使用する場合は、ウルトラ－U(２輪車用)またはAPI分類SE級相当のSAE 10W－30エンジン オイルをご使用ください。

《規定量》 1.2ℓ

《交換のしかた》

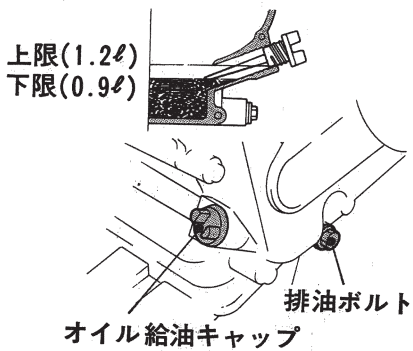
1.オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
エンジンが暖かいときに行なうと、エンジン内に残る量が少なく早く抜けます。

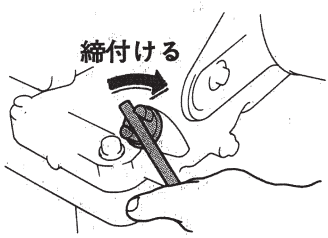
2.オイルが完全に抜けたら排油ボルトを確実に締付けます。

3.エンジン オイルを給油キャップのレベル ゲージで確認しながら上限まで注入します。(給油キャップをねじ込まず差し込んで確認します。)

4.注入後、オイル給油キャップをゆるまないようにドライバー等で確実に締付けます。

・オイルは使用しなくても自然に劣化します。定期的に点検・交換を行ないましょう。





注意 ・エンジン停止直後にオイルを抜く時は、オイルの温度が高いので火傷に十分注意してください。

変速機オイルの交換

変速機オイルが汚れていると変速機各部の摩耗を早めます。

《交換時期》

初回：20時間目、以後：300時間運転毎または１年１回

《使用オイル》

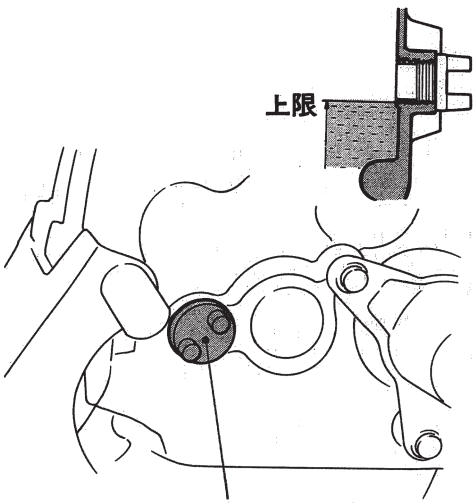
ホンダウルトラオイル

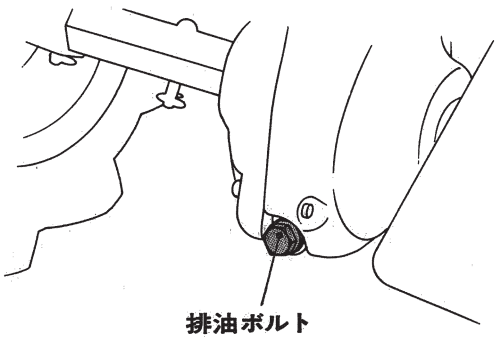
《規定量》 3.5ℓ

《交換のしかた》

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. オイルが完全に抜けたら、排油ボルトを確実に締付けます。
3. 注入口の口元まで新しいオイルを注入します。
4. 注入後、オイル給油キャップをゆるまないように確実に締付けてください。

・オイルは使用しなくても自然に劣化します。
定期的に点検・交換を行ないましょう。





ロータリ オイルの交換

ロータリ オイルが汚れているとロータリ各部の摩耗を早めます。

〈使用オイル〉

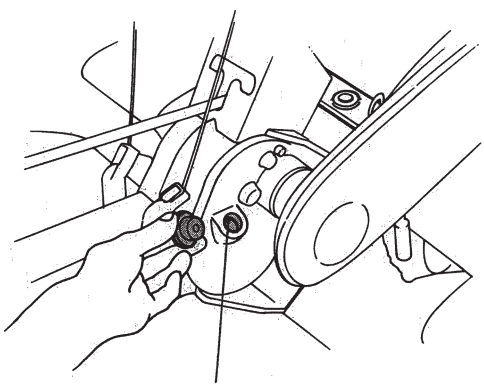
ホンダウルトラオイル

〈規定量〉 0.6ℓ

〈交換のしかた〉

1. オイル給油キャップ、排油ボルトを外してオイルを抜きます。
2. オイルが完全に抜けたら、排油ボルトを確実に締付けます。
3. オイル点検ボルトを外し、オイルがにじみ出てくるまでオイルを注入します。
4. 注入後、オイル点検ボルトを確実に締付け、オイル給油キャップを取付けます。





空気清浄器(エア クリーナ)の清掃

空気清浄器が目詰りをすると出力不足や燃料消費が多くなるので定期的に清掃しましょう。

《清掃時期》

清掃：50時間毎

ホコリの多い場所で使用した場合は１日１回または10時間毎。

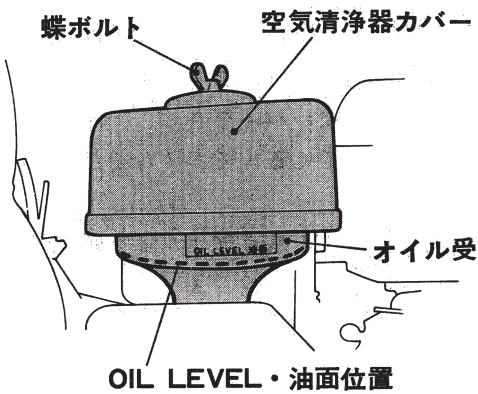
《使用オイル》

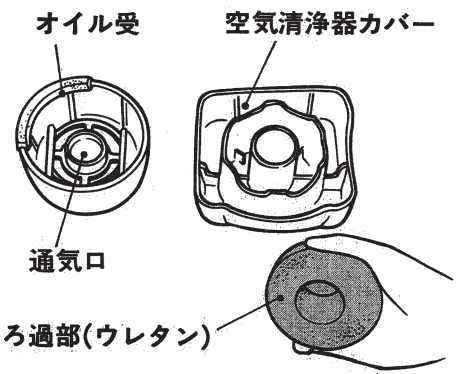
ホンダウルトラオイル

《規定量》 55cc

《清掃のしかた》

1. 蝶ボルトを外し、空気清浄器カバー、オイル受を取外します。
2. 空気清浄器カバー内のろ過部（ウレタン）を取外します。
3. ろ過部（ウレタン）を洗油で洗浄し、エンジン オイルに浸した後、固くしぼります。
4. オイル受の各槽に均一にOIL LEVEL・油面の位置まで、きれいなエンジン オイルを入れます。この時、通気口にオイルが入らない様、注意してください。万一入った場合はお買いあげ販売店またはホンダサービスの各地区センターにお申しつけください。





注意
- ろ過部（ウレタン）を洗浄する時は火気厳禁。
- ブリーザチューブは必ず取付けてください。

点火プラグの清掃、調整

電極が汚れたり、電極の間隙が不適当ですと、完全な火花が飛ばなくなりエンジン不調の原因になります。

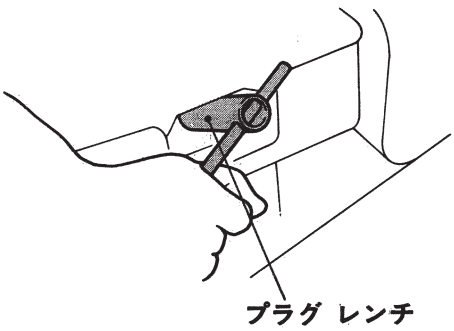
《清掃時期》

100時間運転毎

《清掃のしかた》

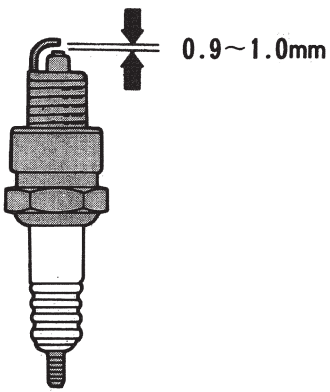
1. プラグ レンチで点火プラグを取外します。
2. プラグの清掃はプラグ クリーナを使用するのが最も良い方法です。お買いあげ販売店またはホンダサービスの各地区センターをご利用ください。

・プラグ クリーナが無いときは、針金かワイヤ ブラシで汚れを落してください。



《調　整》

・側方電極をつめ、火花すきまを0.9～1.0㎜に調整します。



《標準プラグ》

BP4HS－10（NGK）
W14FP－UL10（ND）

注意

・標準以外のプラグを使用しないでください。
・エンジン停止直後は温度が高いので、やけどをしないよう注意してください。
・プラグの取付けは、ねじ山をこわさないように、まず指で軽くねじ込み、次にプラグ レンチで確実に締付けてください。

燃料ろ過装置清掃

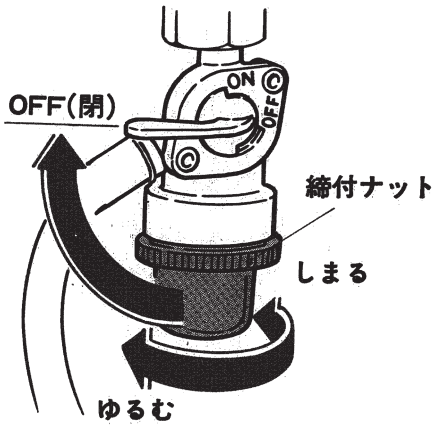
燃料ろ過装置内に水やゴミがたまるとエンジン不調の原因となります。

《清掃時期》

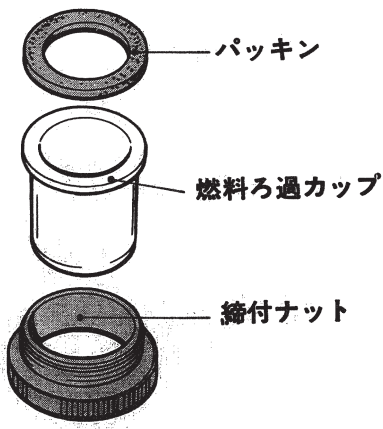
100時間運転毎

《清掃のしかた》

1. 燃料コック　レバーをOFF(閉)にします。
2. 締付ナットをゆるめ燃料ろ過カップを取外します。
3. 燃料ろ過カップを洗油でよく洗い底にたまったゴミや水を取り除く。
4. 清掃後、ガソリン洩れのないよう締付ナットを確実に締付けてください。



注意　・燃料ろ過装置清掃中は火気厳禁。



エンジン回転調整ワイヤの調整

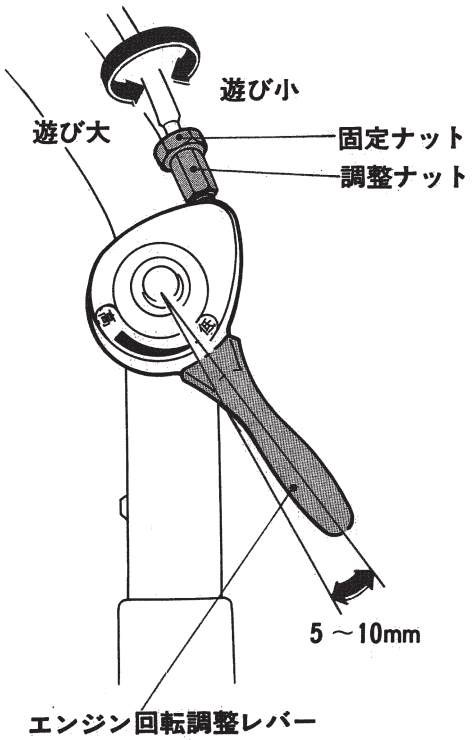
エンジン回転調整ワイヤの調整が完全でないと、エンジン不調の原因になることがあります。

《調整時期》

300時間運転毎または1年1回

《清掃のしかた》

1. エンジン回転調整レバーの遊びが、先端で5～10mmになるように調整します。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ナットをまわして行なってください。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。



主クラッチ ワイヤの調整

主クラッチ ワイヤの調整が完全でないとベルトがすべります。

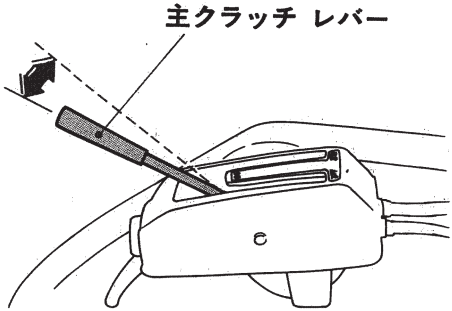
《調整時期》

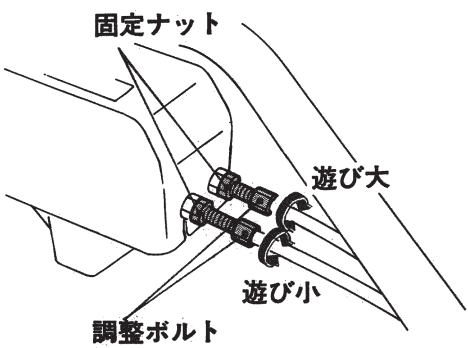
300時間運転毎または1年1回

《調整のしかた》

1. 主クラッチ レバーを手前に引き、切った状態でレバー先端の選びが低速側：12～15㎜、高速側：10～13㎜になるように調整します。
2. 調整は固定ナットをゆるめ、調整ボルトで行ないます。
3. 調整後、固定ナットを確実に締付けてください。

高速：10～13mm
低速：12～15mm





操向クラッチ ワイヤの調整

操向クラッチ ワイヤの調整が完全でないと操向クラッチの切れが悪くなります。

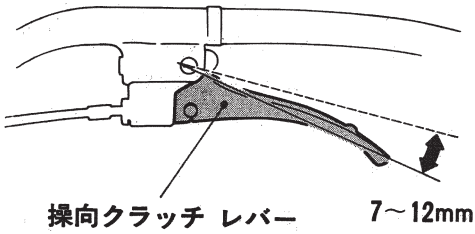
《調整時期》

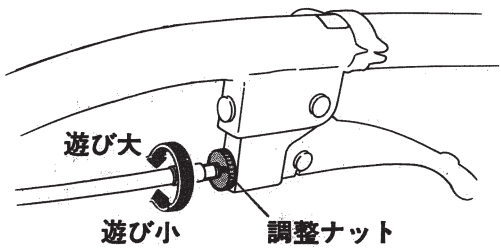
300時間運転毎または1年1回

《調整のしかた》

1.操向クラッチ レバーの遊びがレバー先端で 7～12㎜になるように、左右同じ要領で調整いたします。

2.調整は、調整ナットをまわして行ないます。





駐車ブレーキ ワイヤの調整

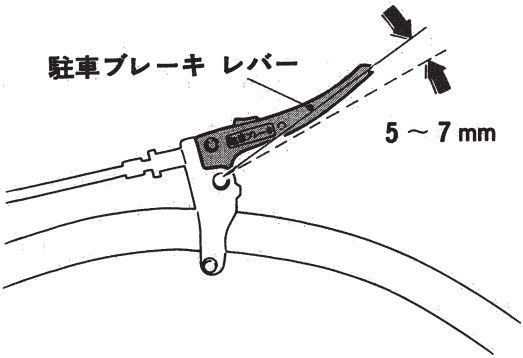
駐車ブレーキ ワイヤの調整は完全でないとブレーキの作動不良の原因となります。

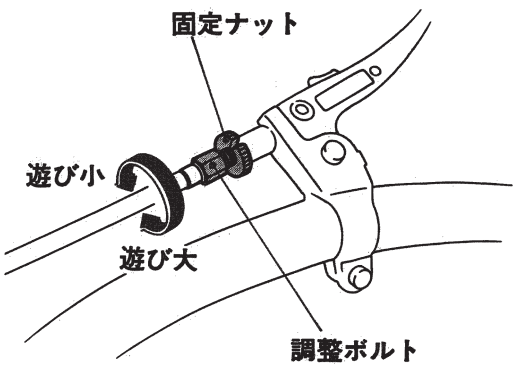
《調整時期》

300時間運転毎または1年1回

《調整のしかた》

1. 駐車ブレーキ レバーの遊びがレバー先端で5～7㎜になるように調整する。
2. 調整は、固定ナットをゆるめ調整ボルトで行ないます。





ベルトの調整

ベルトがすべると動力を損失するばかりでなく、ベルトの傷みがいちじるしく早くなります。

《調整時期》

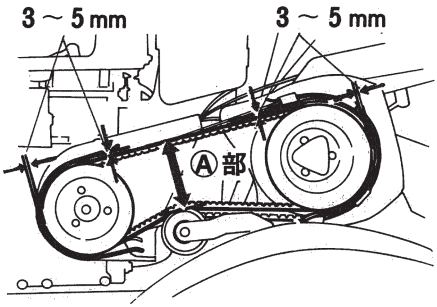
初回：20時間目　以後100時間運転毎

《調整のしかた》

1.ベルト カバーを取外します。

2.主クラッチ レバーを前方に倒した状態（クラッチが〝入〟の状態）で、Ⓐ部が下記の寸法になるように調整します。

		Ⓐ部寸法(mm)
F950 CS·LS	低速	75～80
	高速	75～80



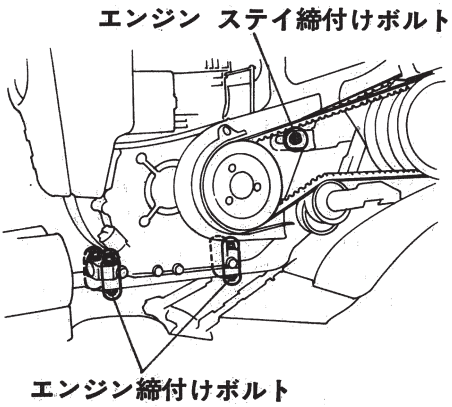
3.調整は、エンジン スティ締付ボルト、エンジン締付ボルトをゆるめ、エンジンを前後に動かして行ないます。

4.ベルトとベルト ストッパのすき間を上下とも3～5mmに調整する。

5.調整は、ストッパ締付ボルトをゆるめ、ストッパを上下に動かして行ないます。

6.ベルト カバーを取付けます。

・調整後、ボルトは確実に締付けてください。



注意

・調整時エンジン側プーリの中心と変速機側プーリの中心を合わせてください。合わせないとベルトが早く傷みます。

・ベルト カバーを必ず取付けてください。取付けないで作業すると衣類が巻込み、思わぬ事故を招くことがあります。

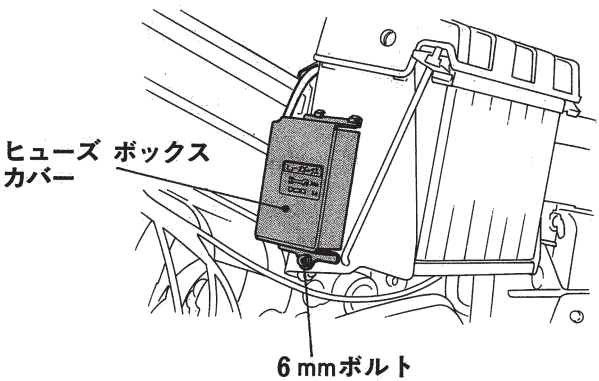
ヒューズについて

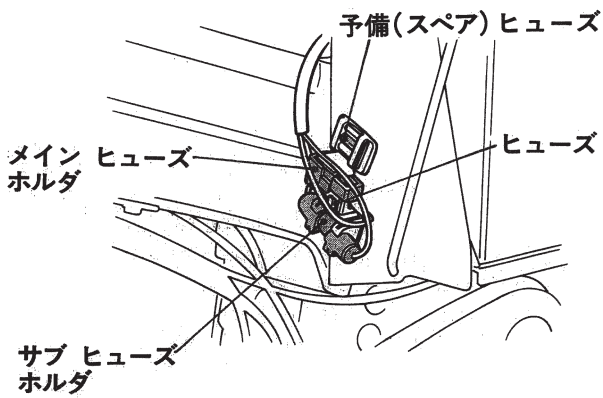
ヒューズが切れたら、その原因を調べてから規定容量のヒューズに交換してください。そのまま交換しても再び切れる恐れがあります。

注意 ・指定ヒューズ以外のもの、たとえば針金、銀紙などを使用すると配線コードなどを焼損させる原因となりますので、絶対に使用しないでください。

《交換のしかた》

バッテリ ケース横の6㎜ ボルトをゆるめて、ヒューズ ボックスカバーをはずします。

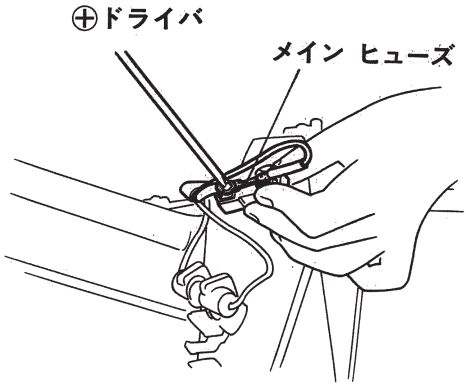




《メインヒューズ》

ヒューズホルダーをバッテリ　ケースから外し、ふたを開けます。付属の⊕ドライバーでビス2本をゆるめてヒューズを交換します。交換後、ビスを⊕ドライバーで確実に締めつけてください。

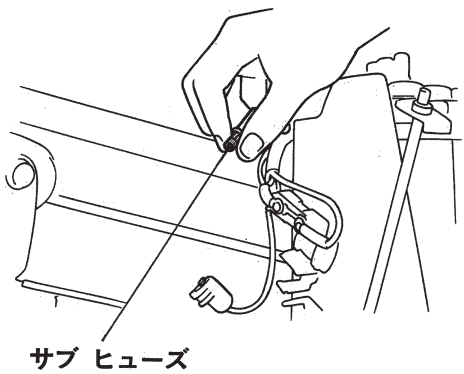
指定ヒューズ：30A



《サブヒューズ》

ヒューズ ホルダーをバッテリ ケースから外し、ふたを左に回わして開け、ヒューズを交換します。交換後、ふたを確実に締めてください。

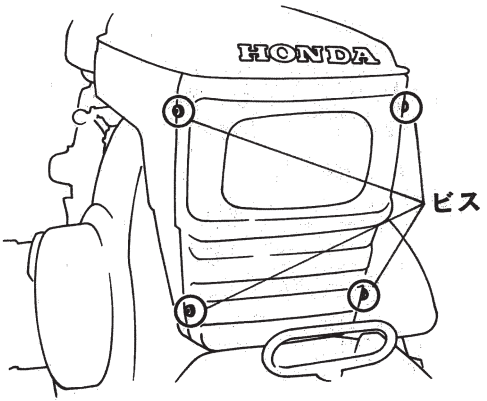
指定ヒューズ：5A

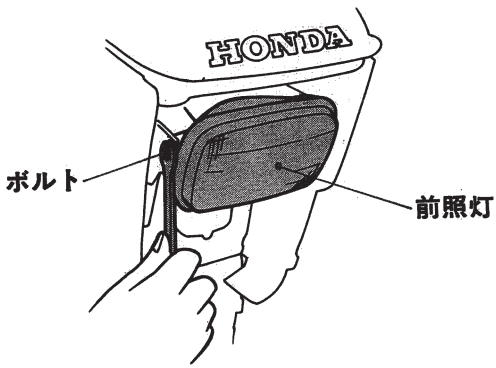


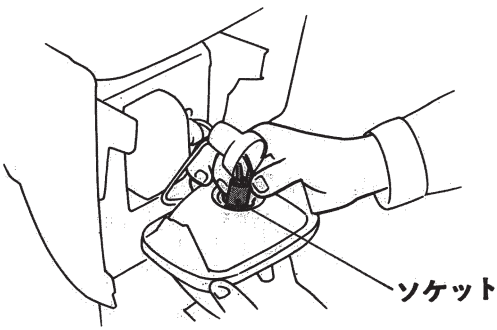
前照灯バルブの交換

《交換のしかた》

1. ビス4本を外し、カバーを取外します。
2. ボルト2本を外し、前照灯を取外します。
3. ソケットを押し下げ左に回して外し、バルブを交換します。
   規定バルブ　12V－25W







長期間使用しない時の手入れ

★長期間運転しない場合、または作業を終り長期間格納する場合は次の手入れを行なってください。

エンジンを必ず停止しエンジン スイッチ キーを抜き、万一の始動を防ぐ為点火プラグ キャップをプラグから取外してください。

1 燃料タンク、気化器内のガソリンを抜きます。

〈抜き方〉

1. 燃料コック レバーを〝OFF(閉)〟にします。
2. エンジン サイド カバーを取外します。
3. 気化器側のチューブを取外します。
4. 燃料コック レバーを〝ON(開)〟にしてタンク内のガソリンを容器に受けてください。
5. 気化器内のガソリンはドレン ボルトをゆるめ燃料を容器に受けてください。
6. 完全に燃料が抜けたらチューブ、ドレン ボルトを元の状態にもどし、燃料コック レバーを〝OFF(閉)〟にします。

注意
- 燃料を抜く時は火気厳禁。
- 風通しの良い場所で行なってください。
- 抜いた燃料の後始末は十分に行ってください。

2 エンジン オイルを交換します。(交換方法は53頁参照)

3 変速機オイルを交換します。(交換方法は54頁参照)

4 空気清浄器を清掃します。(清掃方法は56頁参照)

5 ダスト カバーを外しゴミ、ホコリ、土砂を除去します。

6 始動グリップを重くなるまで引き、プーリのマークとファン カバーのマークを合わせる。(エンジン バルブが閉じ燃焼室内にほこり等が入らない状態になる。)

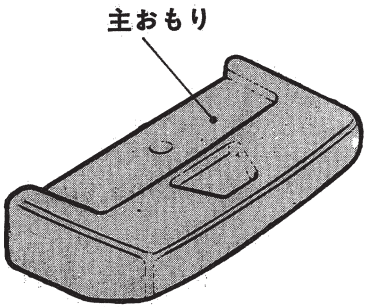
7 タイヤ空気圧を少し多くするか(1.4～1.5kg/cm²程度)車輪を浮かして湿気、ホコリの少ないところにスタンドを立てて保管。

8 バッテリ端子の配線をはずします。(必ず⊖側からはずしてください。)
さらに次の様にして頂くとバッテリが長持ちします。バッテリを本機から取外し、補充電を行なって保管してください。保管中、夏期は1か月に一度、冬期は2か月に一度補充電を行なってください。

別　売　部　品

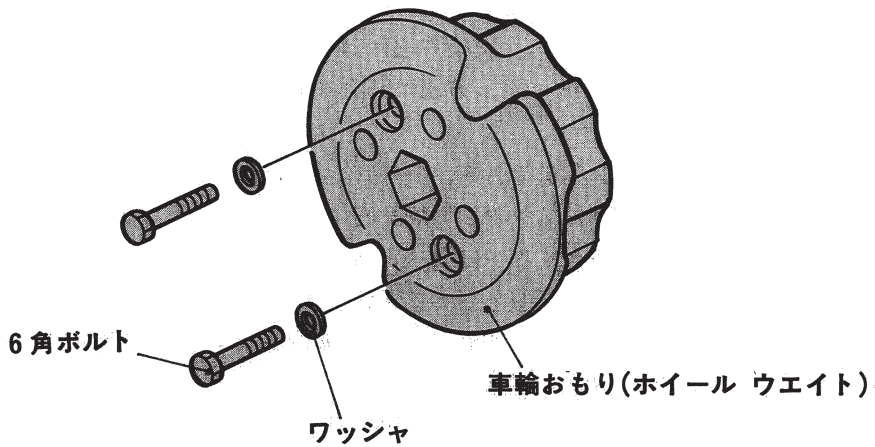
●前部おもり(フロント ウエイト)

けん引作業のとき本機重量の増減に使用します。



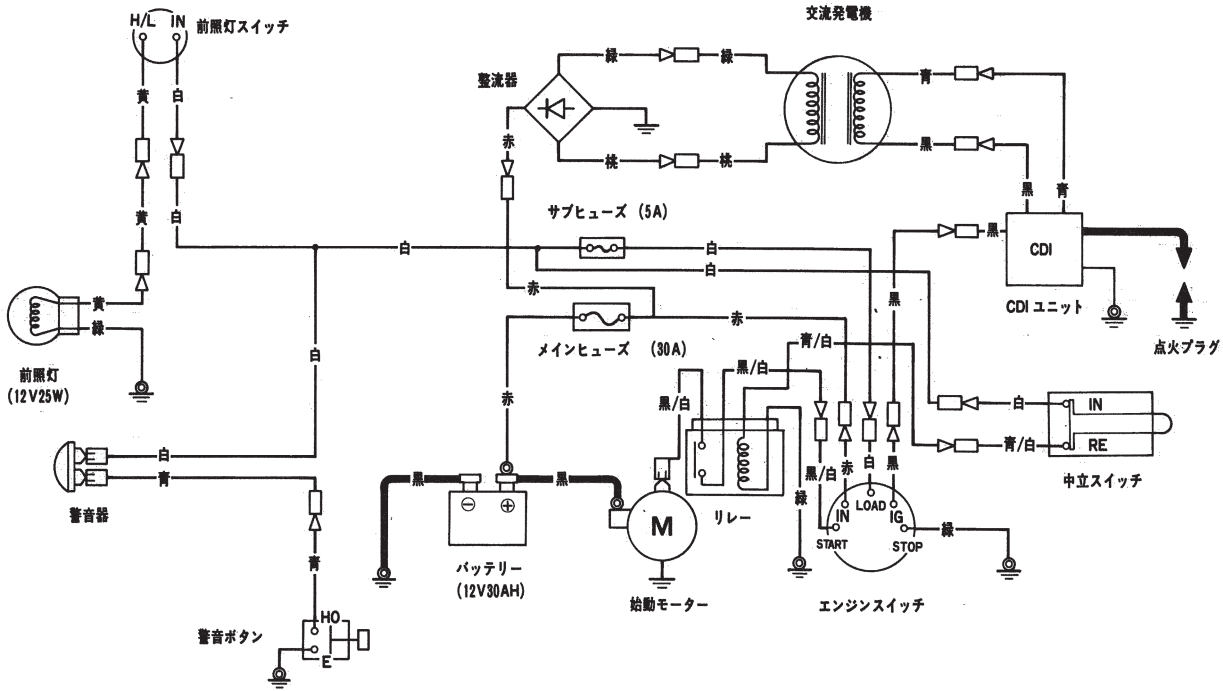
●車輪おもり(ホイール ウエイト)

けん引作業のときに本機重量の増減に使用します。



主要諸元

型式		F950	F950L	F950	F950L
区分		F950CS	F950LS	F950CSR	F950LSR
機体寸法	全長(mm)	1,870		2,005	
	全幅(mm)	955（バックミラー～ハンドル）		←	
	全高(mm)	1,155		1,135	
ハンドル幅(mm)		655		←	
重量(kg)		217(ホイールウェイト、フロントウェイト付) 165(ホイールウェイト、フロントウェイトなし)		265	270
エンジン	名称	ホンダG400			
	形式	空冷4サイクル1気筒立形ガソリン			
	総排気量(cc)	406			
	出力／回転速度(PS/rpm)	7.0/1,650(最大10/1,800)			
	使用燃料	自動車用無鉛ガソリン			
	燃料タンク容量(ℓ)	4.3			
	点火方式	無接点マグネット点火			
	始動方式	リコイルスターター・セルスターター			
タイヤ		4.00－12　2PR			
主クラッチ方式		ベルトテンション			
制動方式		内部拡張式(駐車ブレーキ)			
変速段数	前進	6段(ベルト掛け替え)			
	後進	2段(ベルト掛け替え)			
	耕うん	———		4段	
サイドクラッチ		爪噛合式			
PTO回転速度(rpm)		低速：953　高速：1,518			
ロータリ	駆動方式	———		センタードライブ	
	耕幅(mm)	———		600	
安全鑑定適合番号		302019	402012	302019	402012
型式認定番号		農1156	農1241	———	———



エンジンスイッチ

	IG	LOAD	START	IN	STOP
OFF	○				○
ON		○		○	
START		○	○	○	
	黒	白	黒/白	赤	緑

前照灯スイッチ

	IN	H/L
OFF		
ON	○	○
	白	黄

警音ボタン

	Ho	E
FREE		
PUSH	○	○
	青	

中立スイッチ

	IN	RE
FREE	○	○
PULL		
	白	青/白

故障のときは

むやみに分解しないで、はやめにお買いあげ販売店で点検整備をしてもらうことがティラーを長持ちさせる秘けつです。

始動しない時は次の点を確かめましょう。

- ガソリンはありますか？
- エンジン オイルは注入口、口元までありますか？
- 点火プラグから火花が出ますか？

次の点検をする前に、エンジンやその他の所にガソリンが付着していないか確認してください。ガソリンが付着していると引火するおそれがあるので蒸発するのを待つか、またはウエスで完全にふきとってから行なってください。

プラグを取外し、プラグ キャップに取付けプラグをエンジンにアースさせ（感電を避けるためにプラグ キャップ以外には触れないでください。）、エンジン スイッチを〝スタート(始動)〟の位置にして始動モータを回わすか、または〝運転〟の位置にして、始動グリップを強く引きます。この時プラグの電極に火花が飛ぶか確認します。

始動モータが回わらない場合は、次の点を確かめましょう。

- 主クラッチ レバーは〝切〟になっていますか。
- 中立スイッチの調整は正規ですか。
- ヒューズは切れていませんか。（P64）

注意 ・この点検は風通しのよい場所で行なってください。

- 始動方法は、取扱説明書通りですか？

主クラッチ、操向クラッチが作動しない時は次の点を確かめましょう。

- クラッチ ワイヤの調整方法が取扱説明書通りですか？

～～～～～～～～少し時間をおいて

もう一度確めましょう～～～～～～～～

故障の修理

お買いあげ販売店または最寄りのホンダサービスの各地区センターへお申しつけ下さい。

メモ



30728604
00X30-728-6040

H 2008603